

目

本

音

楽

集

団

邦楽現代

特集●日中に懸ける音楽の橋

座談会 日本音楽集団第十次海外公演を果して

ジャーナリスト・アイ——王燕樵氏に聞く

第十五号 一九八三年春

歌楽帖⑩アジアの可能性 三木稔

カメラータ・レコードは、
三木＝野坂、及び七一年以降の三木＝日本音楽集団の
すべてをレコード化、紹介につくして来しました。



めばえ/三木稔作品選集 Vol.1

香り、色、そして音がたがいに照らし合って、あの詩行そのまゝの世界が……。

三木稔：

ダンス・コンセルタント第1番「四季」、めばえ、竜田の曲、奔手、夕影の詩

野坂恵子(声・二十絃箏) 宮田耕八郎(尺八) 杉浦弘和(三絃)
日本音楽集団

●CMT-1001 ¥2,500



野坂恵子・三木稔/「二十絃箏の世界」

ここには、もはや音楽における境界など存在しない。選びぬかれた10曲から紡ぎ出す野坂恵子二十絃箏の響から清きあがる目もあざやかな色彩をもった演奏たち。

三木稔：

破の曲(箏とオーケストラのための協奏曲)、序曲と「春鶯囀」(オペラ「春琴抄」より)、ひなぶり、東から(カメラータ・レコード委嘱)、白曜、まぼろしの米、箏詩集第二集、天如、佐保の曲、竜田の曲

野坂恵子(二十絃箏) セヴェリーノ・ガッゼローニ(フルート)
徳永二男(ヴァイオリン) 伊藤雅一(語り) 山岡重信(指揮)
東京フィルハーモニー交響楽団 群馬交響楽団

●CMT-1015-8(4枚組)¥10,000



「巨火」「わ」/三木稔作品選集 Vol.2

「燃える判楽器」を現出した、鬼才三木稔と日本音楽集団の臨界点。「巨火」の天地を描出す打楽器群の圧倒的な迫力、「わ」の論しいアドリブの競演。

三木稔：巨火、わ

井上道義(指揮「巨火のみ」) 日本音楽集団

●CMT-1041 ¥2,500



野坂恵子/二十絃箏の世界II

バッハ、ブルースそして最近作までの多彩な選曲。野坂恵子二十絃箏の深奥を刻明に捉えています。

J.S.バッハ：カヴァット、サラバンド

池辺晋一郎：結ぐ、N.マカイ：ワールズ

三木稔：めばえ、秋の曲

三木稔・野坂恵子(編)：グリーンズリーヴス

野坂恵子(二十絃箏) 坂田誠山(尺八)

●CMT-1048 ¥2,500(デジタル録音)



野坂恵子・三木稔/二十絃箏の世界III 「鎮魂協奏曲」(コンチェルト・レクイエム)

これは永いレクイエムの歴史のなかでも、明らかにエポックとして不滅であろう。三木の透徹した感性から繰り出される死者の安息への祈り。これは同時に各ジャンルに危険な境界線に咲く奇跡の花でもあるのです。

三木稔：鎮魂協奏曲(コンチェルト・レクイエム) 箏詩集第一集、華やぎ

野坂恵子(二十絃箏独奏)

日本音楽集団、田村祐男(指揮)

●CMT-1070 ¥2,500(デジタル録音)

予告 / 今秋発売

「ペロ出しチョンマ」「八郎物語」

語り語りと言楽の新様式

三木稔の歌謡レコード初登場

Camerata

発売元：カメラータ・トウキョウ

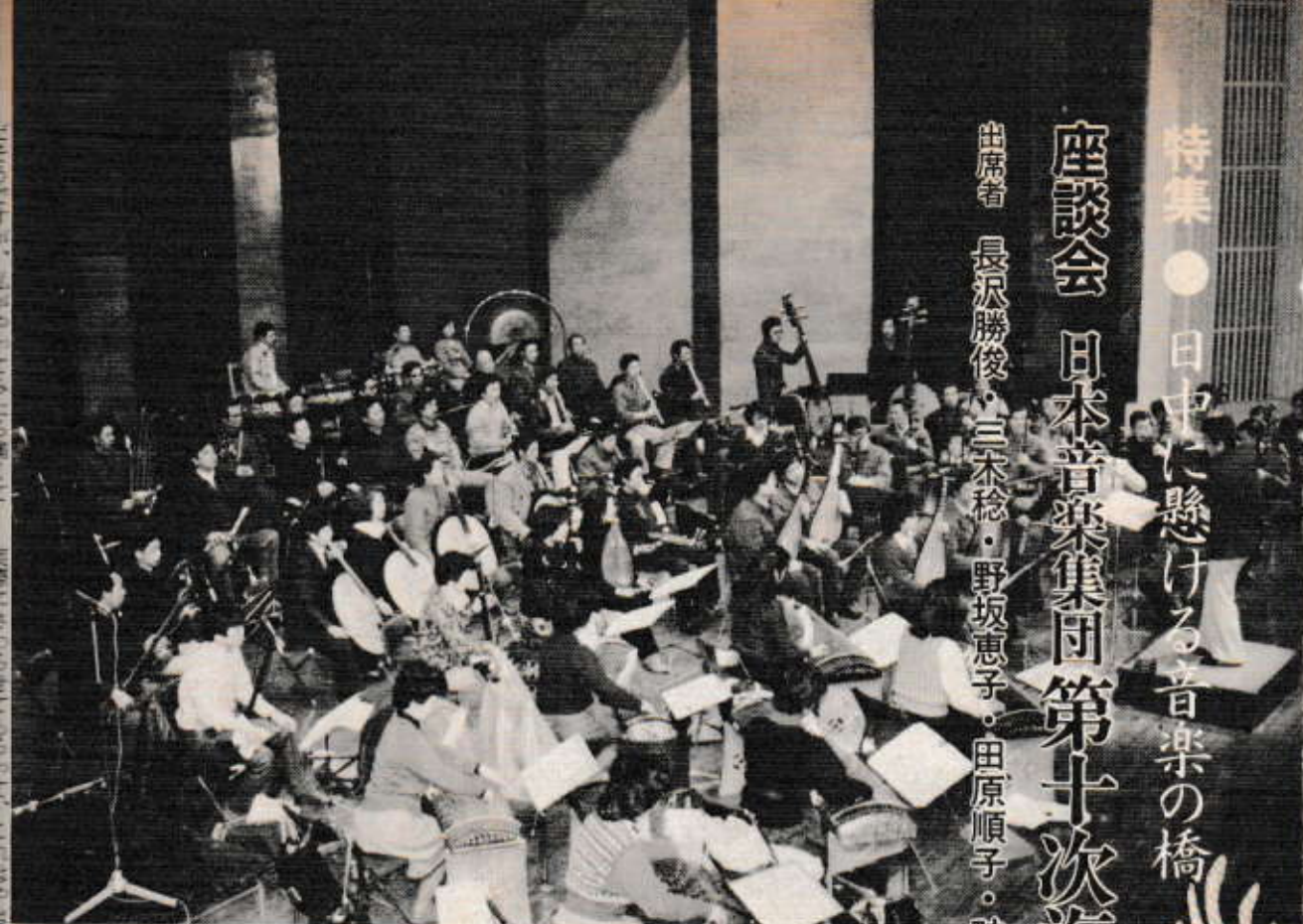
〒150 東京・渋谷区神宮前4-26-32吉田マンション3F

☎03(405)6081

特集 ● 日中に懸ける音楽の橋

座談会 日本音楽集団第十次海外公演を果して

出席者 長浜勝俊・三木稔・野坂恵子・田原順子・畦地慶司・竹井誠・加藤洋・宮越圭子



紅塔礼堂での合同練習

日本音楽集団の海外公演は、一九七二年のヨーロッパ公演を第一次とし、七四年東南アジア、七五年オーストラリア・ニュージーランド、七六年アメリカ、七八年欧米、七九年ハワイ、八十年東南アジア、八一年ヨーロッパ、八二年香港とは一年一回のペースで積み重なり、今年の中国公演が記念すべき第十次となりました。今号では、不参加だった団員を代表して宮越圭子が聞き手となり、参加団員から公演の様子を探り、中国側と折衝を一手に引き受けて下さった王燕樵氏へのインタビューやデータなどを合わせて特集します。

宮越 そもそもどのようなきっかけで、訪中することになったのですか。

三木 今まで日本音楽集団は、世界中の色々な国々と交流していきたくて願ってきたわけですが、特に中国には早く行きたかったのです。しかし政治上の問題や、経済的な理由などで、なかなか実現できませんでした。たまたま王燕樵氏（中国中央楽団作曲家）が二年半ぐらい前に、

作曲の勉強のために日本に見えられた。王さんの話では、七九年にロンドンで初演されたオペラ「あだ」が中国でも関心を持たれていた。集団のことも皆知りたがっているということ、集団が訪中する基盤が整ってきているなど思ったのです。ただ中国での公演は、日本側の負担が大きく、政府の援助を頂けるかどうか文化庁に打診をしたところ、それまでの集団の実績もあってこの年度に助成が決り、念願の中国行きを実現することができたわけです。

宮越 今回の中国でのスケジュールはどうだったのですか。

三木 初め王さんの話では、中国の聴衆はまだ演奏会でのマナーが悪いので、一般公演はとて無理だろうから、音楽関係者はかり集めた内部交流という形で全部行おう、ということだったのですが、彼が一ヶ月前に北京に戻って、招待主の音楽家協会の担当者とは相談している間に、初日（三月五日）は一般公演にしよう、ということになったらしいのです。ただ、



会場をボストン・シンフォニーも使った、客席が一四〇〇位の紅塔礼堂という最高の場所に決めたものの、お客が入るかどうか王さんも自信がなかったのだ、あまり入らなかったら二階席は閉鎖する予定になっていたという話でした。ところが、日本のように情報量が多くないブリミテイブな社会だからできると思うのですが、二日前に切符を売り出したら三時間で全部売れてしまい、そのあと電話がひっきりなしだったのだそうです。来れなかった人は、中央放送の全国放送で聞いたんでしょね。その次の六日に、音楽関係者を対象にした演奏会を、北京の中央音楽学院でやった時も、招待者全部が入りきらなかったらしいですね。北京では七日にも、中国音楽家との交流演奏会をやりましたが、これについてはあとで述べます。

宮越 北京以外はどうかだったんでしょ。三木 中国内でのスケジュールは、先方にまかせきりだったのですが、集団の人にもどうしても中国のいいところを見てもらいたい、という王さんの強い希望で、美人の多い杭州に二日立寄りしました。そこでもパーティの時に、尺八と胡弓とで（他の楽器は上海へ直送して手元になかった）演奏して、とても喜ばれました。我々の方は越劇や、地元の歌舞団の演奏をきかせてもらったのですが、これがまた得るところが多かったですね。

宮越 そのあとが上海ですね。

三木 これが大変でした。先乗りの王さんが、上海にも前もって寄って準備してくれる予定だったのが、北京の方で放しきれないの、上海には電話連絡しかできなかったらしいんです。上海音楽家協会としては、過去に行った邦楽関係の演奏を、上海の人はあまり喜ばなかったといって、何かしらけた様子でした。ところがこれも中国的なのですが、王さんが一生懸命北京での成功の模様を説明したら、一晩の間にガラッと変わって受け入れが完璧にできてしまいました。十一日

兄弟楽器の現状

宮越 中国の楽器は、やはり日本のものと似ていますか。

長沢 中国では胡弓・笙・琵琶などに大胆な改良が加えられています。反対に事・尺八などは、アンサンブルの中ではあまり活躍していないようですね。その意味で、集団とお互いに補う形で共演できました。

宮越 各楽器の話をきかせて下さい。

三木 音楽器には、まず何種類かの横笛があります。洞簫という尺八に似た縦笛もありますが、あまり活躍していません。それから笙がよく使われますが、日本という竿（オクターヴ低い）の改良でしよう。また簫は向うでは簫子といひ、笙と同じく民族楽器で、日本とは比較にならない位活躍します。もう一つチャルメ

の上海音楽学院ホールでの集団の演奏は、リハーサルも入念に出来、今回の中で最高だったと思います。その時上海のテレビ局もとりに来て、全ステージ立派な証拠が残っています。

次の十二日の交流会も、集団の演奏が二時間、中国側が一時間と予定を逆転させてもらって、団員は所定のものを全部やりました。そのあとの交流会もいこうべきことを言い、中国側のいいリアクションがありました。

そういったところが駆け足の報告です。

それに似た唢呐が、金管楽器的役割をしており、中低音用もあって、チャルメラのイメージを超えたすばらしい演奏技術でした。

竹井 「相馬盆唄」では笛がメロディを吹く所が多かったのですが、こぶしのまわし方など、日本人よりもうまかったりしましたね。逆に「落族舞曲」などでは、尺八が曲の雰囲気や非常によく出していました。

野坂 私は横笛が特に印象に残りましたね。草の皮を張って共鳴させたピリッというオーボエ的な音と、柔らかいフルートの音を、一本の笛で吹きわけられるのです。だからアンサンブルでの笛の威力がすごいんですね。

三木 大変面白いとは、日本では琵琶、



中央民族楽団の音楽器群

三味線のさわりを大切にしますよね。ところが中国では、それが逆に音楽器の方にあるのです。日本の尺八にも応用できそうですね。実は尺八は小鼓の中では、物凄く自己主張ができるし、多数の合奏の中でも柔らかいバックになりうるのですが、他の強い主張に合うと、埋もれてしまうのが常々難儀の種でした。さわりの効用のある中国の笛は、とてもいいヒントではないですか。

竹井 実は宮田教室でやってみたことがあるのですが、うまくいかなかったのです。

三木 紙でやったんでしょ。中国では吹口の近くに特別に作った穴に、草の内

側の薄い膜を張って使ってますね。草がなければ、化学的なもので実験してみたらどうでしょう。

野坂 あれはしかしすさまじい音ですね。

三木 でもとても哀愁がある。

野坂 しかしあれは、いわゆる中国的な音なんです。それを尺八ですぐ真似をする、というのはどうかしら。

三木 日本人はもともストリートな音が好きなのに、むしろ中国のものより中国的な琵琶というものもある。単なる習慣の問題ではないかなあ。こうして協演してみると、自分たちの伝統の正体を洗い直してきて面白かった。

宮越 三絃、琵琶はどうですか。

加藤 中国では大三絃と小三絃があります。

野坂 大三絃はすごく大きかったですね。宮越 手が届くぎりぎりの大きさまであるんですか。

加藤 そうです。喉は三味線と似ていましたが、棒が太くて長いんです。だから男の奏者が多かったようですね。女の場合には完全にたててやっています。皮は蛇を使っています。ところが、弾くのにバチを使わないんですね。親指と人差指に、プラスチックのような小さな爪をはめて弾く。事と反対で、自分の爪と同じ側につけるんです。

田原 琵琶も同じ物を使っています。琵琶は自分の爪に差し込むこともあるのだそうですが、私がやってみたら痛くて



練習の合間に日本の三味線を弾く中央民族楽団のメンバー

とても弾ける状態ではない（笑）。自分の爪の形に合わせて作るのだそうです。

加藤 そしてとにかく速く弾く。小指まで使ってワットと弾くんです。日本の三味線とは全然別の楽器という感じがしましたね。

宮越 棒が長ければ、それだけ低い音が出るわけですね。

加藤 そうです。集団の低音三味線のような音です。だから合奏の中では、伴奏の低音部を受持っていました。ソロの時はとにかく速いのですが。

田原 私は琵琶については、行く前から全く別の楽器だと考えていたのですが、実際にさわらせてもらって、これはやは

り、私達が「びわ」という名で呼ぶ楽器ではないな、と思いました。幾つかの演奏を聞かせてもらいましたが、似かよったタイプの曲が多かったですね。日本の琵琶の古典が、どれも似ているのと同じように、あれがやはり中国の、いわゆる「琵琶の音楽」なんですよね。なんだかいつも全絃をかき鳴らしていたので、音が大きく聞えましたが、一つ一つの音は日本の方が大きいのか、こちらの方が速くまで聞えるんじゃないかと思いました。

三木 尺八の場合とは逆で、琵琶の場合、中国の方が合奏の中で埋もれてしましますね。日本の琵琶奏者は、いつも音が小さいというコンプレックスを持っているようですが、実際はどんなフォルテの中でも、さわりのおかげで常に聞えるんです。しかし多分シタールの技法を取り入れたんでしょうが、横に絃を引張ることで、押し込みの特性を残しつつ多柱化を成し遂げ、彼らなりの表現力を開拓しているんですね。いずれ日本のびわと中国のピバは別物と考えて対処せざるをえないです。

田原 琵琶族というよりマンドリンのようなものに近い。いったい何を目的にして練習しているかという点、限りなく速く、細かいトレモロが弾ける事のようにですね。速いことはいいことだ、みたいな合奏の練習をしています。間がある、こう、タララララ（笑）。

宮越 静かな曲はなかったんですか。



中央民族楽団の琵琶群

田原 今回は聴かなかったです。あれが私たちの琵琶族なのでしょうね。ちょっと教えてもらったのですが、とても弾けなかった。

長沢 僕なんか二分音符で書いたところもね、日本ですとトーン、トーンと弾くところが、全部トレモロになってしまわねえです。

三木 中国の人が言っていました、それはすべての楽器について言えることだそうなんです。とにかく目立つように速く弾くということが、一つのネックになっていて、その意識をどう突破するかが大問題なのだと。

宮越 それでは打楽器をお願いします。

三木 堅田君が言っていたけど、失望したそうです。今回聞きたいいくつかの合奏曲の中では、打楽器の役割を押しえられていた感じがしたね。

長沢 ティンパニ的要素が大きかったですね。

野坂 だけど、京劇のようなものもあるんでしょ？あるはずですね。

三木 越劇を見たけど、打楽器の劇的用法の面白いパターンが開けたね。それから日本の太鼓・木魚・妙八・チャップナなどは中国からのもので、あと面白いのは板鼓。これは大鼓のような音です。京劇のあのキューンという小鈔や、沢山ビッチを持つ云鈔がユニークですね。

宮越 華はいかがでしたか。

三木 日本では琴と事の区別が全く理解されていないと思うので、琴と事を分けて考えましょう。

野坂 私は琴の方が好きでした。

三木 中国には周時代からある古琴をはじめ、琴に属するものが大変多いんです。琵琶も琴の要素がありますし。

長沢 小柳琴というのは琵琶に似ていますね。

加藤 僕はそれを買ったのですが、調弦がわからないんです。フレットが音痴で（笑）。

畦地 合奏の中では琴はとてきれいな音でしたね。

三木 よく音が通りますね。それから阮、

月琴など、琴類はたくさんあるそうですね。ティンパロムに似た揚琴もよく使われる。

野坂 第では一九五六年に上海音楽学院で開発された二十一絃というのもあるんです。ところが調弦が、ドレミソラ（D E F A H）の音階で、4オクターヴ、ブラス上のドの音で二十一本。音域は4オクターヴですが出ない音がたくさんある。絃の数だけは偶然に我々のものと同じになったんですが、根本的に全然違うわけですね。先日ジャンジャンで唐の時代の曲というのをやったのですが、すごくいいんですね。ところが中国の新しい二十一絃でなくて弾けないようなアルペジオが入っている。変えてしまったんですね。

宮越 華は中国の人は古典です。古典ですと言っているわけ。その点日本だと、一拍ふやすかふやさないかなんてことで、大問題になるわけですね。古典は、その当時そのままにやらなくてはいけません。みたいなのがある。だから考え方が全然違うんですね。そういうところは学ばなくてはいいけないと思います。

三木 王さんが、華に関しては集団の第だけで充分だということで、今回は合同の編成に入らなかったのです。琵琶や琴などは西洋オーケストラ同様、大合奏の中ではハーブ的な存在のようですね。

長沢 遠目にはハーブと同じですが、音が出るのと全然違うんですね。すごくよくて、あれは成功している例ですね。

野坂 え、？ バイオリンより高いなんて思えない。哀愁というか、甘い、こころ臓にぐっとくる感じ。

（口々に、「甘い……」「哀愁……」）

長沢 だけどヴィオラとは全然違いますね。テープや本ではわかりませんでした。が、行って初めて、あ、なるほどなあと思いました。

田原 ちょっとわからないんですが、いくつかの低音楽器は、もともとあったものなんじゃないかな。

三木 やはり西洋をモデルにしたようですね。二胡の小型が高胡、中音域が中胡、低い方は撥弦楽器阮咸を元に大革胡（チエロ）と低革胡（コントラバス）で弦楽合奏を構成しているんですが、低い方はまだ中国の個性が出ています。中国には五十六民族もいるので、ルーツをどこかにこじつけながら自分たちの伝統としてやっているんですね。他の絃や管それ



笙の演奏

ハーブといえは、愛媛の最近の改良楽器は愉快でしたね。絃が二列で、左側用には琴の柱がズラツとついている。左手で絃を押して余韻が動かせるようにしてあるんです。

長沢 遠目にはハーブと同じですが、音が出るのと全然違うんですね。すごくよくて、あれは成功している例ですね。

野坂 え、？ バイオリンより高いなんて思えない。哀愁というか、甘い、こころ臓にぐっとくる感じ。

（口々に、「甘い……」「哀愁……」）

長沢 だけどヴィオラとは全然違いますね。テープや本ではわかりませんでした。が、行って初めて、あ、なるほどなあと思いました。

田原 ちょっとわからないんですが、いくつかの低音楽器は、もともとあったものなんじゃないかな。

三木 やはり西洋をモデルにしたようですね。二胡の小型が高胡、中音域が中胡、低い方は撥弦楽器阮咸を元に大革胡（チエロ）と低革胡（コントラバス）で弦楽合奏を構成しているんですが、低い方はまだ中国の個性が出ています。中国には五十六民族もいるので、ルーツをどこかにこじつけながら自分たちの伝統としてやっているんですね。他の絃や管それ

中国人は物にするでしょうね。

三木 もう一つ、蝶々華という発明品が面白かったですね。これは一九八〇年に、楽器としては中国で初めての発明賞をとったそうですが、要するに短二十五絃を二つつなぎ合わせたと思えばよく、左側は二十一絃のD E F A HにCisも用意され4オクターヴ。右側に残りの音がある。胴体はつながっているから共鳴は大きくなります。奏者は中央にいて、左側のは普通の奏法、右側は柱並びが逆に開いて押しの奏法はしない、というのが大体の原理ですね。まだオリジナルの曲はなく、サンサンスを弾いてくれました。日本の事奏者は手を出さないとはいいますが、中国人は物にするでしょうね。

三木 もう一つ、蝶々華という発明品が面白かったですね。これは一九八〇年に、楽器としては中国で初めての発明賞をとったそうですが、要するに短二十五絃を二つつなぎ合わせたと思えばよく、左側は二十一絃のD E F A HにCisも用意され4オクターヴ。右側に残りの音がある。胴体はつながっているから共鳴は大きくなります。奏者は中央にいて、左側のは普通の奏法、右側は柱並びが逆に開いて押しの奏法はしない、というのが大体の原理ですね。まだオリジナルの曲はなく、サンサンスを弾いてくれました。日本の事奏者は手を出さないとはいいますが、中国人は物にするでしょうね。

三木 もう一つ、蝶々華という発明品が面白かったですね。これは一九八〇年に、楽器としては中国で初めての発明賞をとったそうですが、要するに短二十五絃を二つつなぎ合わせたと思えばよく、左側は二十一絃のD E F A HにCisも用意され4オクターヴ。右側に残りの音がある。胴体はつながっているから共鳴は大きくなります。奏者は中央にいて、左側のは普通の奏法、右側は柱並びが逆に開いて押しの奏法はしない、というのが大体の原理ですね。まだオリジナルの曲はなく、サンサンスを弾いてくれました。日本の事奏者は手を出さないとはいいますが、中国人は物にするでしょうね。

三木 もう一つ、蝶々華という発明品が面白かったですね。これは一九八〇年に、楽器としては中国で初めての発明賞をとったそうですが、要するに短二十五絃を二つつなぎ合わせたと思えばよく、左側は二十一絃のD E F A HにCisも用意され4オクターヴ。右側に残りの音がある。胴体はつながっているから共鳴は大きくなります。奏者は中央にいて、左側のは普通の奏法、右側は柱並びが逆に開いて押しの奏法はしない、というのが大体の原理ですね。まだオリジナルの曲はなく、サンサンスを弾いてくれました。日本の事奏者は手を出さないとはいいますが、中国人は物にするでしょうね。

三木 もう一つ、蝶々華という発明品が面白かったですね。これは一九八〇年に、楽器としては中国で初めての発明賞をとったそうですが、要するに短二十五絃を二つつなぎ合わせたと思えばよく、左側は二十一絃のD E F A HにCisも用意され4オクターヴ。右側に残りの音がある。胴体はつながっているから共鳴は大きくなります。奏者は中央にいて、左側のは普通の奏法、右側は柱並びが逆に開いて押しの奏法はしない、というのが大体の原理ですね。まだオリジナルの曲はなく、サンサンスを弾いてくれました。日本の事奏者は手を出さないとはいいますが、中国人は物にするでしょうね。

三木 もう一つ、蝶々華という発明品が面白かったですね。これは一九八〇年に、楽器としては中国で初めての発明賞をとったそうですが、要するに短二十五絃を二つつなぎ合わせたと思えばよく、左側は二十一絃のD E F A HにCisも用意され4オクターヴ。右側に残りの音がある。胴体はつながっているから共鳴は大きくなります。奏者は中央にいて、左側のは普通の奏法、右側は柱並びが逆に開いて押しの奏法はしない、というのが大体の原理ですね。まだオリジナルの曲はなく、サンサンスを弾いてくれました。日本の事奏者は手を出さないとはいいますが、中国人は物にするでしょうね。

三木 もう一つ、蝶々華という発明品が面白かったですね。これは一九八〇年に、楽器としては中国で初めての発明賞をとったそうですが、要するに短二十五絃を二つつなぎ合わせたと思えばよく、左側は二十一絃のD E F A HにCisも用意され4オクターヴ。右側に残りの音がある。胴体はつながっているから共鳴は大きくなります。奏者は中央にいて、左側のは普通の奏法、右側は柱並びが逆に開いて押しの奏法はしない、というのが大体の原理ですね。まだオリジナルの曲はなく、サンサンスを弾いてくれました。日本の事奏者は手を出さないとはいいますが、中国人は物にするでしょうね。

三木 もう一つ、蝶々華という発明品が面白かったですね。これは一九八〇年に、楽器としては中国で初めての発明賞をとったそうですが、要するに短二十五絃を二つつなぎ合わせたと思えばよく、左側は二十一絃のD E F A HにCisも用意され4オクターヴ。右側に残りの音がある。胴体はつながっているから共鳴は大きくなります。奏者は中央にいて、左側のは普通の奏法、右側は柱並びが逆に開いて押しの奏法はしない、というのが大体の原理ですね。まだオリジナルの曲はなく、サンサンスを弾いてくれました。日本の事奏者は手を出さないとはいいますが、中国人は物にするでしょうね。

に打楽器でも、派生楽器を作り出す大らかな意欲と行動力は、問題はあるても面白い。西洋でも広い響きを求めて今日のオーケストラを作り上げたんですね。しかし日本では難かしい。表現力の拡大より洗練に向う美学が主流ですから。それに現実の問題として、例えば胡弓を、むこうの胡弓の合奏のようなものを持つていくのは、奏者の少ない日本では不可能だと思ふんですね。日本の胡弓は、合奏の中でも独奏楽器としての用法を確立することが本筋ではないでしょうか。

史上初の二国間民族楽団協演

宮越 合同演奏はどのように実現したのですか。

三木 今までの海外公演では、ゲヴァンハウス・オーケストラと共演した以外は、集団の演奏を聴いてもらうだけというのがパターンでした。しかし私は、オペラ・ア・ラ・ヴェの体験で、外国の音楽家達との共演は、一緒に練習する機会を通して、お互いの心の通い合いもできるし、集団だけではできなかった色々な発見もあるはずだと思ふようになりました。特に戦争中の犠牲者もあって、アジア諸国と共演のチャンスも多くしていきたいと思つていたところだったのです。中国側は当初、そこまで考えてはいなかったらしいのですが、我々としては、特に日本の楽器の祖国である中国の民族楽器の楽



万里の長城で中国の演奏家たちと

団と手を取り合せて、唐以来一三〇〇年間の空白を埋め、未来につながる共演をしたいということに切に願ったところ、快く受けとめてもらえました。そして、中国中央民族楽団との歴史的な共演が実現したわけです。

宮越 どのような曲を共演したのですか。
三木 共演するためには、それなりの作品が必要です。決定したのが今年の一月初めだったので、時期的に大変忙しかつたのですが、長沢さんと私が一曲ずつ用意しました。王さんにも書いていただく予定だったのですが、彼は今回のプロデュースが大変で、無理でしたので、結局中国の最も有名な民族音楽合奏曲である「塔舞舞曲」の適当なパートを邦楽器に置き変えたりして演奏しました。また、

アンコール・ピースとしては「相馬盛唄」をやりました。ただ今回残念だったことは、合同の練習時間があまりとれなかったことです。本番の前日（四日）に向うに着いたので、五日の午前中しか合同練習ができなかったんですね。もちろん双方共、単独では練習しておいたのですが、田原 中国の琵琶族の隣にいたのですが、まずとまどいました。同じセクションという感じがしないんですね。全然別の楽器になっていて、こんなものかなという想像があります。でも、こう聞えてくるはずだ、という書き込みなどしたり、ところが行ってみたら、予想以上に音量が大きかったり、小さかったり、色々なことがありましたね。

長沢 そうでしょうか。
三木 本当に始まり、でしたね。
田原 だと思えます。あともう一回練習があったら、今日聞いたものが頭の中にセッティングされているからとわかるんじゃないかな。と思つている時がもう本番でした。

三木 皆さんそうだったと思います。次の機会には、作品も演奏も、何度か何度も練習直してやっていきたいですね。楽団同志のバランスもそうですが、やはり日本のイデオロムで書いたところが理解されていなかった部分もあるので、充分な説明と練習があると、演奏表現は全然変わってくるだろうと思ひますね。

並び方なども、上手が中国楽器、下手が日本楽器などとなりそうだったので、できるだけ入り混つてもらうようにしました。そんな点でも説明できる十分な時間が欲しかったですね。もし、互いの持味が解って生かされるようになる、合奏としての表現力は倍増ものだね。
田原 そうだと思ひます。隣にいた小柳琴の人が、八分音符位でかいてあるところを弾いていると……速くなりたいたんですね、彼は。（笑）それがあって伝わってくる。心配になってきたりするんですよ、こっちは。

加藤 三味線でも感じました。やっていた何だか、コロコロ（先へ行く）。

田原 そういふのを見ていると、やはりこういう人達にワッツと速いところを弾かせたら、本当に乗気になってやるんじゃないかと思つたり。

三木 と同時に、ワンパターンになつてしまふ……。

田原 かもしれないですね。

三木 ま、要するに約一三〇〇年前に中国から入ってきたものと、中国に残ったものが、それぞれの地でそれぞれの発達を遂げて、劇的な再邂逅をしたわけですよ。こういうアクションを起して共同作業の場を作っていくことは、絶対に必要だと思ふんですね。西洋にはオーケストラという共同作業の場がありますけど、アジアにはありません。それに日本人は、ついアジアを忘れがちですからね。



上海音楽院での歓迎会で

まあ今回やってみて、こちらも色々勉強になりましたけど、先方の責任ある位置の人たちの話によると、得たものが大きいようです。始めはボカンとしていて、こちらがギヤラを払わなきゃならないんじゃないかな、と心配するような状況だった。ところが結果的には、中央民族楽団は自分たちのスケジュールを全部さいで、練習して迎えてくれたんですね。だからこそ全く自分達の予想しない結果が出たわけです。

長沢 具体的に交流ができたわけですよ

日本音楽家のメンバーと中国音楽家は、昨日午後、対外友好協会小ホールで交歓会を行った。以下、交歓会席上喋った、小さな花を紹介しよう。

△長沢勝俊氏は何を思ったのか？

交歓会の席上、両国の音楽家たちはお家業を披露した。日本の音楽家たちの演奏は日を追って、より深く、きめ細やかなものとなっている。彼等が演奏した「ツネツネ」等の楽曲は、皆を清らかでしっとりと落ちついた旋律美へと引き込んだ。中国音楽家の演奏する「霸王卸甲」「八仙慶寿」等の民族楽曲は、梗やかさと明快さを兼ね備え、聴く人を感動させた。二つの民族の二つの風格は、いずれが優れているとも言えないものである。日本音楽家団長の長沢勝俊氏も、時々リメウを取り上げ、中国音楽家の演奏を撮影していたが、その後考え込むようにならずに始めた。長沢勝俊氏は巧みにあらゆるものを吸収し、新しい発想が頭の中に通きかけていたの

ね。楽語ごとに、観念的な討論ではないことが。

駐地 向うも、とっても嬉しかったと言っていましたね。

三木 今後ほとんどん曲を作って、お互いの交流があるたびに共演していこう、という趣に合意できたのが、一番よかったのかもしれないね。

野坂 何よりの収穫ですね。

三木 作品面でも演奏面でも、今回はまだだったと思いますが、とにかくトライするんだ、ということ今回初めて

ではないだろうか。

△自動車、自転車と人の競争

自動車、自転車、人、この三者の間の関係は、もともと音楽と何らかの関わりのあるものではないが、その民族の音楽と、その他の民族音楽の長短に話が進んだ時、三木氏は、これを用いて大変具体的な説明を行った。どの民族の音楽にもその独特な魅力を感じてい

その調べは 中日音楽家 なごやかに 交歓の記

るのであって、それらを無理に比較するのは非科学的なことである。これはあたかも、自動車、自転車と人の競争のようなものであって、自動車と人の競争のようである。人々や自転車と比べて価値が最もあるものとはいえない。音楽家がなすべきことは、他民族の音楽の中の美しいものを吸収し、我民族の音楽をより充実させ、より表現力のあるものに

やってみなければです。△彩虹序曲△というタイトルは、言うなれば「虹の序曲」という題なんです。東支那海に橋をかけて、日本と中国の間を本当にカラフルに往来したい、そういうつもりで書きました。

長沢 僕のは、△青春△といって、ネギウタと読んでくれた人は少なかったのですが、要するにお祝いの歌なので気持としては同じですね。一三〇〇年の空間を埋めて、初めて出会うことへの祝福。ただやはり、楽器を知らなかったり、向う

することである。

△「教世主が来た」

公演終了後、何人かの音楽を学ぶ学生が、(両国の専門科会に加わった一人である)滝田美智子氏をとり囲んだ。日本の事はどのようにして音楽を変えるか？とか、指にはめてあるツメは落ちることがないかとか、質問したが、惜しいことに言葉が通せず、美智子氏はどのように答えてよいかわからなかった。中国の学生はやむなく弾くまねをして、彼女はようやく問題の一つがわかった。彼女は舌で指をなめてからツメをはめた。その意味は、よく見て、私はつばでツメをしめらせるのだ。と。この時通訳が来た。彼女は大声で、教世主が来た。と叫んだ。通訳の助けを借り、彼女は一つ一つ中国学生の質問に答えた。最後に彼女はしみじみと、真剣に中国語を勉強し、また中国に来て演奏したいと語っているの、と語った。

(三月八日、北京晩報 李光)

へ行って、あんなにかと思っただけでも多いので、全面的に書き直しをしようと思っています。時間も今度は制限がないし、楽器に関する本も買ってきたので。

三木 無理してでもやってみて、よかったなあ、という気持ちと、また大きな問題を抱えてきたなあ、という気持ちが交錯しています。これをそのまま押し進めていこうと思うと、僕らだけの力ではできないから、みんなが本当にあとあと引き継いでやらなければならないと思う。

ま、その端緒だけは切ったけれど、アジアのオーケストラに至るまでは、それはもう大変な道のり……

野坂 私なども、一つの出発点だったと想っています。とても学ぶことが多く、例えば「民族舞踊」などはあちらの十八落だったで、中国の楽器がいきいきとしていたし、こちらも楽しかったのです

が、いずれこれからの可能性が開かれるための足がかりである、という感じを持ちましたね。

長沢 その第一歩として日中のシンボジウムなどという話もでしたが、それをやるには大変なエネルギーがいりますよね。

中国の民族音楽はどこへ行く？

宮越 中国の民族楽団というのは、民族音楽を主にやっているのですか、それとも新しい曲を中心に行っているのですか。

長沢 新しい曲もやっているのですが、詳しいことはよくわからないのですが、例えばNHKの「シルクロード」に使われた喜多郎の曲をアレンジしたり、小山清茂さんの「木挽歌」などもアレンジしたりしていましたね。作品としてもなかなかキチンとしていたが、そういう中で、民族性を生かしながら作品のオリジナリティを持つものということになると、ちょっとみつからなかったですね。民謡をアレンジしたピースもののような

野坂 でも、帰る前日の交流会で「時間はたっぷりありますよ」って言われまして、どうということかというのを、子孫代々に渡ってそういうことをやっていけばいいって。中国側はそういう気持ちでいる。もう非常に大きいですね。

三木 今回、中国の音楽界の中核の多くの方々に世話になりました。特に、音楽家協会主席の呂驥先生、中央音楽学院院長の呉祖強先生、中央民族乐团団長の唐榮枚女士、上海音楽学院副院長の桑桐先生、研究所の羅開先生や全期間随行者の何長福さん、石民さんにお礼申し上げます。そして二年半に亘っての最大の恩人は名通訳の松村なほ子さんですね。

ものはたくさんあっても、それが音楽としてあるべきもの、一つの思想を伝えるもの、そういうものは今聴くことができません。もしかしたらあるのかもしれないが、とにかく、楽器の問題と同様に、創作の面でも「民族性を生かしながら新しいものを創っていく」ということがこれからの課題のようです。そういうところも集団から影響を受けたと言っていましたね。

三木 世界的にある舞曲様式のものが多いんですね。西洋でいえば「ハンガリアン・ダンス」のようなアゴークを持ち、ソ連の中央アジア系作曲家の旋律傾向に

近く、フォルクローレなどで多く見られる形式、というところかな。今回合同の「民族舞踊」は「コンドルは飛んで行く」に匹敵するいい曲で、集団の団員の気持ちをひきました。六分半ぐらいの曲なので、三部形式でうまくまとめている。

メロディがとてもよく、日本人の好きな自然短音階なんですね。彼らの民族楽器の合奏というのは、大衆を基盤にして作っているのでも健全なものです。しかしその反面、受けることを狙ってパターニ化し、思想を伴った芸術音楽に発展していく事情があるのだそうです。速く弾くことだけに走ったりするのも同じ理由からでしょう。作曲家の交流会の時に、構成をどうしたらいいのか、ときかれたのですが、構成といわれても膨大な問題だから一口に返答できません。音楽だとしてドラマだし、社会的な現象そのものをモデルにして構成を考えればいいと思っ

ている、と答えなければいけません。芸術というのは、表現能力を一人抱えているが、聞かせる意識を見せない所で成立したりするあたりが曲者ですね。まあしかし我々作曲家としては沢山の勉強ができたと思っています。

それから、洋楽のものをアレンジすることは集団でもやっていますが、向うは大変面白くそれをやっていますね。例の「闘牛士の歌」を明瞭を中心にやっていたのですが、これがものすごい技術ですね。彼らはいいたい、パロディとしてや

っているのか本気になってやっているのか、ちよっと……

野坂 本気でしよう！

三木 でもそれが、パロディ的な面白さがあるんですね。とても素晴らしい技術で、オリジナリティよりもいい部分があったりしましたね。

あともう一つ、彼らは日本の楽器と違って、十二音階を基本にして改良していますから、アレンジにも集団の楽器とは違った自然さがありました。しかし彼らもやはり西洋ものを主流にするということには、大変でいろいろあるようです。だから集団ほどではないけれど、これから多様な創作をやってみよう、という気持ちになったようです。

野坂 上海音楽学院の中で一番メインなのが民族楽器の部分なのですが、その中に、民族音楽の器楽部門と作曲部門と楽器部門があるんですね。民族楽器を演奏するだけではなく、作曲家も育てようとしているわけですね。しかし上海音楽学院の中には、日本の中学と高校にあたる附属中学、それに附属小学校もある。もうとてもかなわないんですね。おまけに楽器改造の工場まであるんだから、もういやんなっちゃう。

宮越 工場まであるんですか？ 楽器改造の。

野坂 もうすごいよ。だからこれから中国は、道を間違わなければのびる可能性が充分あると思いますね。

三木 これはやはり解放後の政策であって、その他にもそれまでの大道芸人を、国家で保障してやりたりしたものですからね。非常に急速な進歩を遂げているわけですね。そういう点ではもう勝負にならないんですよ。日本では大学に入ってからクラブ活動などで始める方が、むしろ一般的ですよ。お節の場合はもう少し早いかもしれません。そういうことからくらべると、小学校からやっている上海音楽学院の学生たちの演奏がねえ、もう……（絶句）

野坂 凄かったわねえ、もう、うまいのねえ！

（各人口々に賛嘆の言葉）

畦地 困った（笑）

三木 マナーもみんなすばらしいものを持っていましたね。訴える力というのでしょうか。

野坂 室々としていてね。

三木 日本人は能面のようにやる習慣があります。彼らは本当に表情が豊かですね。少し作りすぎかな、と思う時もあるけど。

野坂 あの、北京で聴きましたよね、華と生でしたかしら。男性二人がとてもしよく顔を見合せて、何だからちょっと……

長沢 やはり民族性の違いなんですよ。

三木 日本でも筑紫流は中国の節の手つきを受け継いでいるように思いますね。あと琉球の押し手の手つきが、やはりそ



上海民族楽団の古琴演奏家 森一氏

うですね。宮廷、やはり地理的に近いことが原因ですか。

長沢 まあ日本が単一民族といっても、色々な説があります。騎馬民族説とか、南から来たとか、幾つかの見解に分れているんですが、いずれにしても大抵のものが向うから学んだものですね。中国へ行くと、日本のものはほとんど中国にある。

三木 予想以上でしたね。

長沢 ですけどやはり、よく見ると通うんですね。お茶なんかも急須がない。茶碗にお茶葉を入れてお湯を入れてしまう。通訳に、中国はどこへ行ってもこうですか、って聞いたら、そうですよ、ってね。

大変なんですよ。お茶葉が浮いてしまから、フーッと吹いて飲まなくちゃならないんですよ。

野坂 なにせ中国というところは広いんです。「大人」という言い方があったり、男の人のことを「大丈夫」と言ったり。だからお茶葉なんか少々食べたりかまわない、というようなものにこだわらないところがある。ところがそれとね、テクニクであれだけ必死に動きまわるといふのと、一体どういう関係があるのか（笑）。その辺がほんとによくわからないんですよ。あれだけ広ければ、ひろい音楽があってもいいわけじゃないですか。だからそういう音楽もあつたんです。

野坂 でも私は残念ながら、今回はひろい音楽には合わなかった。古舞だけだった。

畦地 その古舞の音楽だと思います。

野坂 あれは本当に空間があつてすばらしかったわね。でもあれはふるい音楽なのよ。

畦地 先程、同じ祖先を持つ者同志が再会した、というような話が出ましたが、中国では唐のものがずっと伝わってきているわけではなく、音楽としては完全に断絶があつて、楽器だけが残っているという見方をした方がいいんじゃないでしょうか。例えば唐様相の雅楽は韓国にのみ正式な形のものが残っている。

野坂 でも今の中国の音楽の方は、中国の人が作ってきた音楽でしよう？

畦地 まあそういうふうにも言えますが、唐のものがいわゆる「伝承」されては、全然ないんですよ。アンサンブルの編成にしてみても、洋楽の発想でやっている。そして今回中国に行ってみて、日本という伝統楽器のやり方とは違って、多くの民族楽器を使った形でのアンサンブルをしている、という気がしたんですね。日本にもそういう部分がありますが、日本の場合は「伝承」されてきたものは、割合ちゃんと残っている。中国にも、もっと古いアンサンブルで「雅楽」というものがあつた筈なのに、現在はほとんどそれが残っていません。僕は、ヨーロッパ音楽とは違うものを創っていく可能性が、アジアにはかなりあると思うんですけどね。

三木 民間に出た音楽は、どうしても変っていくでしょうね。ただその変り方なんです。型を動かすということに対して、日本人は割に抵抗があるものなんです。日本の場合内容の上で精神的に変ってきた面が多かったです。中国の場合は、型は変えても内容が伝わればいいと思われている。二胡族の弦楽合奏などは、西洋の弦楽合奏と似ているように想像してたんですが、全然別のニュアンスを持っていた。中国人には良かれ悪しかれ換骨奪胎の思想があり、良くいえば型はどうなっても、自分たちは中国民族のアイデンティティを持ちうるんだという

強い自信がある。

野坂 それはありますね。演奏家一人一人にもあるという感じ。

長沢 やはり日本の縄文時代にはすでに立派な文化を持っていたし、そういう意味では優れた民族であるわけです。まあ色々な時代があったでしょうけれど、それがいい意味での自信につながっているのですね。決してひけらかさない

座談会に出られなかった団員より

田村拓男

口中民族楽器の合同演奏を指揮するチャンスを得て私の気持は大変高鳴っていました。

集団（18名）に加え中国側が46名、総勢64名による民族楽器のオーケストラの出会いとともに、新しい歴史のページをめくることができました。輝きのある笛、表情豊かな二胡、五本の指にピックをはめて縦横無尽に弾く琵琶……。いまだに音が聴えてくるようです。

集団単独コンサートでの私の指揮スタイルも話題を提供したようです。床几式椅子に腰かけての指揮、太鼓を打ちながら盛り上げていく「巨火」の指揮、石を打ちながら入っていく「コンチエルト・レクイエム」などをみて唐栄枚女史（中央民族楽団長）や陳春齡氏（上海音楽学院の笛の教授）らが感心していました。中国の人たちは、お客をもてなすことにおいて世界一だと聞いて行きました

し、親切でやさしいのですが、内心はやはり……。本当に中国というのは大変な民族ですよ。だからこそ、これだけの文化を築いてくれたわけです。

宮越 そういう国の民族楽団と、これからも一緒にやれるチャンスが多くあるといいですね。今度は私も是非参加したいと思っています。

が、なるほど、温かい心づかいや最高においしい料理と、特別仕立ての音楽会まで開いて歓待してくれました。逆の立場になって私たちが東京でそれだけのお返しができるかと考えた時、心はあってもそれを助けるいくつかの現実がつかかるだろうと想像して、一抹の淋しさを覚えるのです。

ともかく、今までの海外公演の中でも最高の部類に属するものでした。

坂田誠山

以前来日した中国の民族楽団の演奏を聴いて、演奏技術の素晴らしいことに感服していたので、中国で学んで来る事も多い事を期待しながら出発しました。

中国民族音楽関係者との交歓会や、中国民族楽器との共演等、様々な催しで感じた事は、まず、社会体制の違いこそあれ、彼等の音楽に携わる環境は、完全に国の保護の中で、管理されているという圧倒感はあるにしろ、連日の如く続く、

個人練習及びアンサンブルの訓練等、特に後者は現在の我々の状況に於いては到底真似の出来ない事で、実に羨ましい事でした。又楽器改良においても大変意欲的で、その方向性は、民族性とは、と若干感じさせる嫌いはありますが、その中に新しい可能性を見出し、日進月歩する彼等の姿勢は、とかく保守的になりがちな日本人にとって、見習わなければならない事だと思われまふ。

しかし彼等にとっても悩みは数多くある様で、短時間の中で我々に向けられた質問等に我々から得られるものは貧欲に吸収しようとする姿勢がありありと伺え、「これからの時間は、子々孫々迄たつぷりとありますから、お互いの友好関係の中で協調しあい、お互いの民族音楽の発展に努力しましょう」との言葉は私も同感で、今回得たものは実に大きかったといえます。

琴造り

くらもち

十三絃
十七絃
二十絃
龍勝

いとしめも致します

千葉県柏市豊住五ノ二ノ二十一
電話〇四七一・六三三・三八六四

王燕樵さんは、今度の公演の橋渡し役をやって下さり、実際に公演の一ヶ月前から中国に帰られて、諸準備に力を尽くされました。再び日本に来られたので、色々伺ってみたい。

今回の中国公演の話はすぐに受け入れられたのですか。

日本音楽集団のことは、中央音楽学院院長の吳祖強氏及び中国音楽家協会の人々はよく知っていました。詩さんはレコードやテープで集団の音楽を聴いて、新鮮な感じをもっておられたので、それでは、と音楽集団を歓迎することがすぐに決ったのです。中国民族楽団団長の唐俊山さんや作曲家の趙詠山氏なども日本の民族楽団が中国に来るのは、とても大切なことである、と話していました。しかし、私達はお客様が来るかどうかが大変心配でした。

最近の若い男女は、ちょっと自由になりましたから(笑)。人々はポップス・ミュージックが好きなのです。だから民族楽団が来ても客席が埋まるかどうか、大変不安でした。実際に切符を売り出して

ジャズ・ナリスティック・アイ ③ 特集 ● 日中に懸ける音楽の橋 王 燕樵氏に聞く 宮越圭子

みると、三時間で売切れて、来た人に切符を確保するのに困りました。演奏会に来た人の割合が、八割までは音楽家だったのは、これまでに日本音楽集団についての講演会が二度、中国音楽家協会主催で行われていたからでしょう。南中国では、上海音楽学院副院長の桑桐氏と研究所の羅開氏が、何

度も日本音楽集団の紹介記事を書いたに書いています。また吳祖強氏は去年来日した時、日本の素晴らしい音楽を聴かせてもらったので、こちらでも充分準備して迎えたいと、いろいろ行動して下さいました。演奏会の結果は大成功でした。

音楽家が多かったので、終演後もたくさんの方々が質問にきました。合同演奏はいかがでしたか。

中国の人々はこのためにできるだけでなく熱心に練習をしました。日本の楽譜の細かいところまでは私もよくわかりませんが、私の家へ

もたくさんの方がやってきて、毎日「王さん、これはどういう意味ですか」(笑)

ウィグル人の歌手は三木先生と長沢先生の曲を聴いて「どうしてウィグルの曲に似ているのですか。とても親しみが持てます」と言いました。私は「それは大変面白いことですね」と答えました。皆さんは作品についてどんな感想をおも

ちでしたか。

中央音楽学院院長の吳祖強氏も、上海音楽学院副院長の桑桐氏も、中国の民族音楽の新曲は和声・曲の型式・背景など皆同じように聞えるが、日本の曲はそれと新鮮に聞える。日本の曲を聴いてみると、中国の民族音楽には多くの問題があることがわかった。色々な点で中国独自の古い形を忘れすぎている、と話していました。今回の影響は深いですね。

演奏についての御感想は。

日本の演奏者は心が豊かです。現在の一部の中国の演奏者は、速く弾くことだけを考えています。私が子供の頃の中国の音楽は、大変心が豊かだったのです。あ、まだその位なんですか？ 変わってき

てから。

そう、三十年位前からです。昔の中国の曲は豊かな心を持っていたのです。実際に、例えば中国の琵琶の方などは、どう思われたんでしょうか。

日本の琵琶を見たとき、とてもおもしろいと思ったそうです。中国の琵琶は宋

と明の時代に演奏技術は発達しましたが、今は南中国に少し残っているだけです。

みんな、一番好きな楽器は箏と尺八だと言っていました。中国では三十年位前に大がかりな楽器の改革が行われました。特に管楽器。改革後の管楽器は、明らかに大きな音が出るのですが、管楽器群の合奏の時、音が一つ一つバラバラに聞こえてしまうのです。ところが合同演奏でそこに尺八が入ると、音が一つにまとまり、音楽がやさしくなる。例えば民族舞曲。前に中国の管楽器だけで演奏した時は、ちょっと固すぎると思いました。しかし今回尺八と一緒にやってみたら、あ

れから等ですが、日本の調弦は種類がたくさんあって、とても素晴らしいと思います。中国は五音階の呂旋法と、七音階(全音階)の調弦法だけなのです。本当は中国にも色々な音階の種類があるのです。陰旋法にあたるものもたくさんあるし、沖縄の音階に近いものもたくさんある。これらの多くの違う音階の曲を呂旋法の調弦だけで弾くのはちょっと無理ですね。その点日本のように、色々な調弦があることも便利です。日本の作曲家は、昔の調弦法にとらわれないで、自由に書いています。今回それが中国の人々にもわかったので、今後はどういう調弦が一番音楽に適しているか、考え

てみたいと思います。

今後の交流について、中国側の具体的なプランがあればいいのですが。

中国と日本の民族音楽の実質的な交流は、多分これが始まりです。中央音楽学院の院長は、野坂先生と三木先生を客員教授として招待したいと言っていました。し、中央民族楽団の人々もお二人に来ていただくと言っていました。音楽家協会の理事も、中国から三、四人派遣して、日本の音楽を研究した方がよいと考えています。上海音楽学院の民族音楽の教授や他の人々は、尺八を勉強したいと

日本人民の感情をのせ、旋律は高く飛翔する

日本音楽集団、昨夜北京で訪中最初の公演

昨日、日本音楽集団は紅塔礼堂において、訪中最初の公演を行った。その美しく妙なる旋律は、暖かく軽やかな春風のごとく、中国の聴衆の耳元を日本人民の思想と感情を伴って、吹きぬけて行った。一曲終るごとに聴衆の熱烈な拍手が湧き起った。

日本音楽集団は一九六四年創立。三木隆と長沢勝俊を主な作曲家とし、日本の伝統音楽の土壌に根をおろしつつ、新しい日本音楽の創造に力をつくしているが、それが当団の演奏する曲目に独特のおもむきを持たせている。彼らは今まで、世界各地を九回にわたって訪問、百二十四の公演を行い、いずれも各国聴衆の賞賛を得ている。

成功の秘訣はどこにあるのか？ それは生き生きとした日本民族の特色にあると言えよう。昨夜演奏したいくつかの曲から見ると、どの曲も注意深く、異なった角度から日本人の民情風俗を反映している。

言っています。また、上海民族楽団の人々も中央民族楽団の人々も、合同演奏の機会が一年に一回位あればいいのに、と望んでいました。個々に協演に参加した章棟和（オーボエ）、李学全（フルート）、胡国亮（チェロ）、汪燕燕（ソプラノ）の四人は、皆口々にとても楽しかった、曲も演奏もすばらしく感激しました、と言っていました。

一昨日こちらに戻って来られたばかりでお疲れのところどうもありがとうございます。

「巨大」では、その旋律は最初種々ながらも激しい響きで、続いて明快になり、最後は烈しく新鋭なものとなるが、その展開は明快で、リズムの変化が徐々に重なり合っている。これも日本人の語を行動が理にかなう、はっきりしているといった特徴と合致するものである。

「コンチエルト・レクイエム」は又違った味がある。日本の音楽家は一風変わった創造性を披露した。右を打つ音から演奏に入り、一筋のゆるやかな流れのような旋律をつくり出してゆくのである。音の進行の変化の中で、一人の日本女性がゆっくりとした足取りであらわれ、木目細やかながら神秘的に聴衆に向って、彼女の人生に対する認識を訴えかけているかのような錯覚を招いた。（注・北京では導入のシアター・ピースの演出は行われなかった。演奏会形式で行われた。上

海では条件が揃ったので、演出を加えた）
いかなる民族の芸術も、まずその民族独特の風格を持たねばならず、それがあって初めて、その他の民族の聴衆から愛されることのできるものである。日本音楽集団の世界各地での公演の成功は、正にこの一点を証明するものである。

■日本音楽集団第十次海外公演の記録

三月五日午後七時、北京紅塔礼堂
（一九八二年文化庁助成）

1. ファンタスマゴリア／長沢勝俊作曲
2. コンチエルト・レクイエム／三木隆作曲
3. 巨大／三木隆作曲
4. 以上全曲単独、指揮・田村拓男

以下中央民族楽団と協演
5. 春歌／長沢勝俊作曲（世界初演）

6. 悠長舞／対秋山・茅渟作曲
4. 5. の指揮・田村拓男
6. の指揮・野坂恵子

北京中央放送が録音し、数回全国放送
三月六日午後七時、北京中央音楽学院ホール
招待制二〇〇満席

1. 飛躍／長沢勝俊作曲
2. 悠長舞／長沢勝俊作曲
3. 悠長舞／長沢勝俊作曲
4. 悠長舞／長沢勝俊作曲

指揮・田村拓男
3. 秋の曲／三木隆作曲
4. 秋の曲／三木隆作曲

指揮・田村拓男
4. 二つの舞曲／長沢勝俊作曲

指揮・田村拓男
三月七日午後三時、北京対外友好協会ホール
日中交際委員会、招待制二〇〇満席
前半、北京の最高クラス民族音楽演奏者による中国演奏
後半、日本音楽集団

1. ツェット／三木隆作曲
2. 尺八・坂田誠山、福田輝久、田嶋直士
3. 三味線・加藤洋、琵琶・半田淳子
4. 大樟・坂井肇子
5. ひなふり／三木隆作曲
6. フルード・李学全（中央楽団）
7. 二十絃・古村七重
8. 二十絃・古村七重
9. 二十絃・古村七重
10. 二十絃・古村七重
11. 二十絃・古村七重
12. 二十絃・古村七重
13. 二十絃・古村七重
14. 二十絃・古村七重
15. 二十絃・古村七重
16. 二十絃・古村七重
17. 二十絃・古村七重
18. 二十絃・古村七重
19. 二十絃・古村七重
20. 二十絃・古村七重

指揮・田村拓男
3. 尺八・坂田誠山、福田輝久、田嶋直士

指揮・田村拓男
4. 尺八・坂田誠山、福田輝久、田嶋直士

指揮・田村拓男
5. 尺八・坂田誠山、福田輝久、田嶋直士

指揮・田村拓男
6. 尺八・坂田誠山、福田輝久、田嶋直士

指揮・田村拓男
7. 尺八・坂田誠山、福田輝久、田嶋直士

指揮・田村拓男
8. 尺八・坂田誠山、福田輝久、田嶋直士

尺八・坂田誠山

筆・吉村七重、木村玲子、

内藤洋子、滝田美智子

5. 巨大 三木松作曲

打楽器カデンツァ・聖田啓輝

指揮と打楽器・田村拓男

上海テレビが実況録画し、放映。

三月十二日午後二時、上海文芸会堂

1. 短調 日中交換演奏会、招待制四〇〇

笛・藤崎重康

打楽器・聖田啓輝、黒坂昇

2. ソナタ 三木松作曲

尺八・坂田誠山、福田輝久、田嶋直士

3. 曲 三木松作曲

4. 古代舞曲によるバラフレイズ 三木松曲

ソプラノ・辻美穂（中央愛楽団）

指揮・田村拓男

5. 鶴の舞 古曲胡弓曲

指揮・田村拓男

6. 秋のファンタジー 三木松作曲

尺八・坂田誠山

7. フアンタスマゴリア 長沢勝彦作曲

指揮・田村拓男

演奏後、上海の音楽関係者、民楽楽団演奏者

と日本音楽界との交流討論会が持たれた。

●公演に参加した日本音楽界のメンバー

一九八三年三月四日午前九時成田発

三月十三日午後七時半帰着

筆・藤崎重康、笛及び尺八・竹井誠

尺八・坂田誠山、福田輝久、田嶋直士

胡弓・畦地慶司

三味線・加藤洋、太神と筆・坂井敏

子、琵琶・半田淳子、田原昭子

筆（二十枝・十三枝・十七枝）

野坂恵子、吉村七重、木村玲子、内藤

洋子、滝田美智子、松本和美

打楽器・聖田啓輝、黒坂昇

指揮と打楽器・田村拓男

代表（作曲）——長沢勝彦

音楽監督（作曲）——三木松

事務局長・奈良義典

随員——王典雄、通訳——松村はほ子

尚、朝日新聞社芸部の砂山清氏が三月十

日迄陪同し取材、三月十七日付朝日夕刊文

化欄に「日中民族楽器の出会い」と題する

長文の関連記事を載せた。



紅塔礼堂の前で、3月5日

田嶋直士第三回尺八リサイタル

○本曲二題 手向・打波の曲／海童道作曲 ○秋の曲／三木松作曲

○カール・チャクラ、尺八とパーカッションのために（委嘱・初演）／伴谷晃

二作曲 ○孤響／三木松作曲 他

賛助出演 吉原すみれ（打楽器）・野坂恵子（二十絃琴）・木村玲子（筆）

日時 一九八三年十月二十日（木）午後七時開演

場所 青山タワー・ホール 入場料 前売二二〇〇円 当日二五〇〇円

お問い合わせ 日本音楽サービス〇三三四〇九一五三五八

田嶋直士〇七二二一三六二二四二三／〇四六七一四五一六四八二

尺八の店 都山流 尺八及楽譜販売

銘木常磐 尺八発売元

樹指製 一尺八寸 五九〇円

本製 一尺二寸より二尺三寸 七九〇円

品物の輸送もお受けしております。

御連絡下さい。

扱商品・琴、三味線、横笛、竹管高級品在庫豊富

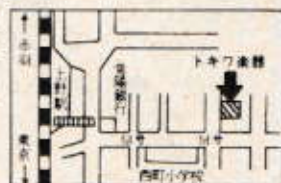
(有) トキワ 楽器

本社 千一〇〇 東京都台東区東上野三六二

電話（八三三）七五五五・五五五〇

連絡所 千三三六 浦和市常盤六二二一五

電話 〇四八八（三三）一四四四



歌楽帖 10

アジアの可能性

三木 稔

「三木氏の音楽世界」というエッセイを書いたことがある。日本と欧米だけでなく、他のアジアの国々の文化も凝視しつつ、新しい音楽世界を築き上げるべきであるという趣旨であった。

現在の文化事情の中で、わが国の音楽家たちが西洋の借物でない自らのアイデンティティを示すことは極めて難しい。邦楽器奏者にしても、十二平均率により、五線記譜法に慣れたいま、楽器や演奏する曲を抜きにして音楽性でみれば、ナシヨナリティが見えないことが多い。一方、東洋の音楽は未知に等しく、他のアジア諸国との連帯は「歌楽帖6」にもふれたように、夢見ても着手し難い音楽事情や社会情勢下にある。

それでも、私は音楽における東洋人としてのIDカードをしっかり持っていたい。西洋人が共通の場としてオーケストラを作り出したように、東洋人の発想に委ねる独自の価値基準と風格を持ったアジアの音楽が欲しい。八急の曲で東西融合を求めたように、アジアでもそれぞれの民族性を生かした共同作業の場があれば、国々の間の真の平和に貢献し、新しい文化の誕生も期待されることを、私は信じて疑わない。

その意味では、一九八三年三月五日に行われた日本音楽集団と中国中央民族楽団の協演は、新しいアジア音楽の紀元元年の趣きがあった。やがて全アジアの楽器が加わる日の前に、まず、最も協調しやすい日中の楽器群が、千三百年に亘ったそれぞれの歴史をふまえて、まさに音立てて邂逅したのだった。

私はこの日のために新作を書いた幸せをしみじみ味合っている。この協演を申し入れたとき、中国側には予想外のことだったようで、合奏の相手は直前まで決まらなかった。多忙な長沢さんにも無理を断って、いささか強引な着手をしたが、確かな出発をしたことの何よりの証明となる二つのオリジナルな作品が残った。

私の場合、今回の序曲を元に、次の機会に是非「彩虹」全曲を仕上げたい。最近、テニス選手の亡命事件を機にして米中文化交流が中止される不幸が起きた。政治の下で文化は常に犠牲にされる。一方的な輸出は標的にされやすい。互いに交わることが必須であることに交流の永続性の保証を求めた今公演の意図が判って頂けるであろうか。

私たちは、六日以降の交流機会も含め、訪中以前に想像していたものを越える技術や美や楽しさに出遇った。中国側の沢山の人たちの話を聞くと、彼らも、集団の団員たちの間では馴れて感じなくなっている日本の、というより集団独自の音楽様式や技術から、強い刺激を受けたという。一方的に聞き合うだけでなく、協演を繰り返す中で、互いのロックの効用は何倍にも増幅し、記憶も深くなっていくに違いない。

解放後の中国は、人口の五割を占める少数民族の優れた音楽を積極的に導入して今日の民族音楽の隆盛をもたらした。尤もそれ自体は革新的であったが、鎖国の中で行われてバターン化し、質感と肉体的表現に問題があると自覚されている。ひるがえって日本の音楽社会は無防備に近く開かれていたが、実は現状変革に拒否反応が強い。私たちの美学は、創価さの中からエネルギーを得る宿命下にある。彼らの楽器改良への態度と成果はまさにその反映である。また、西洋モデルに對比し得る中国民族管絃楽と、擦弦楽器群などを欠きながら作りあげてきた日本の集奏様式の表現力の位相差も説明がつく。そういった互いの事情に極さすことな

く、両国の伝統と技術を尊重しつつ、注意深いオーケストレーションの下に合奏を行えば、無数の豊かな果実を生み出し得る確信を私は持った。より厳しい美意識の転換を伴うとはいえ、それは東南アジアやインドの楽器にも通じよう。

ただ、日本的な洗練指向の保守性によってには前進ができない。その点、農耕民族の特性に、周辺騎馬民族のバトスを加えたせいなのか、今回中国で楽大的革進指向を見た私は感慨ひとしおだった。

十次百三十の海外公演を無事終え、西洋とアジアの楽団との協演を果たしたことは、私が楽団と関わった長い年月の中でも特に忘れ難いことになった。日本音楽集団の仲間たちと見る夢は果しなくある。しかし、私は耕やし種を蒔くべき人間であって、既得の耕地の植物を揃えて育てる時期にきた集団には無用の長物かもしれない。次なる荒地に向わねばならぬ。歌楽帖もひとまず閉じるが、支持して下さった方々ありがとう。若し、育てている植物の実体が見えなくなるようなことがあったなら、この十帖にしたためたことが、きっと何かの役に立つでしょう。

楽邦季刊

発売中! 1200円

34号

年間購読受付/送料共5800円。3・6・9・12月末発送。邦楽ファン毎月サービス。

名曲総合研究Ⅳ

八重衣

吉川英史(背景)／石田百合子(歌詞)／星旭(作曲者)／太田里子(三絃・唄)／笠原古都(箏)／青木鈴慕(尺八)

昭和57年度芸術祭の邦楽塚田博(演奏会)／三隅治雄(レコード)／竹内道敬(放送)

昭和57年度邦楽界総決算長尾一雄(演奏会)／小堀蘭曲庵(邦楽界)／平野健次(レコード・邦楽図書出版)／編集部(慶弔)

昭和57年度十大ニュース井野辺潔／岸辺成雄／三枝孝栄／富田宏／矢野輝雄／矢部洋文／山川直治

邦楽五十三次(第五回)

館野善二(府中・金谷)／景山正隆(金谷・浜松)／竹内道敬(浜松・赤坂)

・アンケート

学生邦楽家の意識調査

人気演奏家・作曲家・曲目ベスト10

米国で活躍した海童道道祖

原武太夫の「三絃の教訓歌」

次号予告
(6月末発売)

バックナンバー御案内

名曲総合研究Ⅰ

31号 千鳥の曲

●邦楽五十三次(三) (日本橋・平塚) ●ケミカル三味線(座談会) ●邦楽演奏家(箏曲家)の舞台マナー(アンケート) ●芸大邦楽科の諸問題(新入生を迎えて) ●日本民族文化の源流を考える

名曲総合研究Ⅱ

32号 茶音頭

●邦楽五十三次(三) (平塚・三島) ●邦楽界の師匠と弟子(芳村五郎治／青木鈴慕／笠原古都) ●新人間国宝に聴く(島原帆山／竹本土佐廣) ●ハワイ大学と邦楽●日本人にとってバリ島の芸能とは

名曲総合研究Ⅲ

33号 吾妻八景

●邦楽五十三次(四) (三島・府中) ●昭和五十七年度邦楽コンクールの報告(新内／宮城会 箏曲／全道三曲／日本琵琶楽) ●京都の六校の墓めぐり(吉川英史) ●邦楽センターは夢か!? (座談会)

名曲総合研究Ⅳ

35号 勸進帳

●邦楽五十三次(六) (赤坂・庄野) ●戦争と音楽(ヨーロッパの場合／日本の場合) ●第2次大戦と邦楽(邦楽界の動向／邦楽家の生活・行動・意識) ●邦楽入試問題(正派／育成会／東京芸大／他)

●全国の書店、又は和楽器店でお求めになれます。お問い合わせは(株)邦楽社へ。

株邦楽社 〒105港区虎ノ門1-19-14 ☎03-591-7271 郵便振替・東京0-12875

お琴・三味線

品質の優秀さ
価格の安さ に定評がある
琴栄楽器店



弊店二階展示場

〈お 琴〉・常時在庫200面・試弾できます。
・特別注文仕上げ受承ります。

〈三味線〉・在庫多数・試弾できます。

お琴・三味線のお買求めは琴栄ローンで(最高20回払い)

箏

御琴・三味線専門

琴栄楽器店

〒500 岐阜市司町九(大学病院前)
TEL (0582) 63 1826・64 1261

パンフレット無料送付致します

76

春の総合定期演奏会

集奏名作十八番より

五月十六日(月) 午後七時開演
朝日生命ホールRegular Concert: Works for Solo, Small Ensemble and Large Ensemble.
Works composed for Nihon Ongaku Shudan

一、新八千代獅子

藤永校作曲 三木稔・藤倉成敏・畦地慶司編曲

〔笛〕西川浩平

〔尺八〕宮田耕八朗(今回の演奏監督)

〔胡弓〕畦地慶司

〔三味線〕太田幸子

〔第一〕吉村七重

〔第二〕坂井敏子・木村玲子

〔十七絃〕宮越圭子・熊沢栄利子

〔小鼓〕堅田喜三久(客演)

〔太鼓〕堅田啓輝

〔締太鼓〕黒坂昇

二、古代舞曲によるバラフレース

三木稔作曲

1. 前奏曲

2. 相聞

3. 田舞

4. 誂歌

5. 變歌

〔笛〕藤崎重康

〔尺八〕宮田耕八朗・福田輝久

〔尺八Ⅱ〕坂田誠山・田嶋直士

〔三味線〕加藤洋

〔琵琶〕半田淳子

〔第一〕吉村七重・内藤洋子

〔第二〕花房はるえ・松本和美

〔十七絃〕宮越圭子・木村玲子

〔打楽器〕堅田啓輝・黒坂昇

〔ソプラノ・ヴォーカリーズ〕日比啓子(客演)

〔指揮〕田村拓男

三、コンチェルト・レクイエム(鎮魂協奏曲)

三木稔作曲

〔独奏二十絃〕野坂恵子

〔笛〕藤崎重康・西川浩平

〔尺八〕坂田誠山・且竹井誠・田嶋貴風

〔尺八Ⅱ〕福田輝久・V田嶋直士・M米澤浩

〔胡弓〕畦地慶司

〔琵琶〕坂井敏子

〔二十絃〕吉村七重・内藤洋子

〔十七絃〕花房はるえ・木村玲子

〔小鼓〕堅田喜三久(客演)

〔太鼓〕堅田啓輝

〔葉太鼓〕黒坂昇

〔指揮及び締太鼓〕田村拓男

四、子供のための組曲

長沢勝俊作曲

第一章 軽やかにのびのびと

第二章 ゆったりとうたう感じで

第三章 遊戲唄風におどけて

第四章 しずかに子守唄風に

第五章 激しく律動的に

〔尺八〕宮田耕八朗・福田輝久・竹井誠

〔尺八Ⅱ〕三橋貴風・藤崎重康・

水谷雅康

〔尺八Ⅲ〕坂田誠山・田嶋直士・米澤浩

〔三味線〕太田幸子・加藤洋

〔琵琶〕半田淳子・田原順子

〔第一〕花房はるえ・熊沢栄利子・山口裕子

〔第二〕木村玲子・内藤洋子・

内藤久子

〔十七絃〕宮越圭子・松本和美・佐藤里美

〔打楽器〕堅田啓輝・黒坂昇

〔指揮〕田村拓男

新八千代獅子

伝統的な地歌・華曲の演奏に際し、現在最も重要視されているのは、いかに正確に「型」を伝えるか、一音も規定の枠からはみ出さずに弾き切るか、ということだと思っています。こうした古典に、少し現代に生きる私たちの息を吹きかけ、喜怒哀楽を表現してみましよう。現在古典と呼ばれるものも、その生きた世々の新しい生命が吹き込まれてきたものなのですから——(初演のプログラムより、野坂恵子)

一九七六年の六月に行われた伝統音楽演奏会で、プロデューサーの野坂の企画で三人の団員により編曲再構成され現代に蘇った古典。歌の部分の尺八、笛が歌い、三曲合奏の他に琵琶、十七絃、そして長唄囃子の、中の舞、などが加わって集団編成の純器楽に手付されている。
初演 一九七六年、コンサート・シリーズ No. 34 「伝統音楽演奏会——地歌・華曲その一」

演奏時間 約十四分 楽器編成 笛・尺八・胡弓・三味線・琵琶・二十絃・十三絃・十七絃・打楽器

古代舞曲によるバラフレーズ

リチュアルな中にもドラマの躍動を強く予感させる八前奏曲から始まり、二曲目八前奏曲はやさしく大らかな万葉の恋歌。ヴォーカリーズに、笛、尺八、琵琶、三味線、箏が呼応し、かつ相応する。つづく八田舞では三味線と篠笛以外の奏者はさまざまな打楽器を手に手に、あたかも野人たちは……といった風情の音楽をにぎやかに打ち鳴らす。八田舞は死者をとむらう葬送の歌。重々しい低音尺八の流れと、それにかみむもう一音の尺八と箏のひびきが動機となって地の底からつき上る。最終曲八田舞では古代人の若々しい青春がエクスタティックに謳歌され、三木陰の想像力溢れた妖しいまでの、古代の祭り、を閉じる。

作曲年 一九六五年・一九六六年 委嘱 NHK 初演 一九六六年放送のための録音 同年十月に第四回定期コンサートで初演 演奏時間 二十七分 楽器編成 笛・尺八・三味線・琵琶・箏・二十絃・打楽器・ソプラノ・ヴォーカリーズ (今回は尺八と箏がダブルです)

コンチエルト・レクイエム (鎮魂協奏曲)

日本音楽集団創立の前年、合唱と管弦楽のために、「彼岸への対話」といった内容でレクイエムを書きました。天寿を全うしないで逝った魂への哀悼を込めた五楽章の曲でした。この二十絃の鎮魂協奏曲は単一楽章だし、歌詞もありませんが、私の二つのレクイエムとなるわけです。

西欧にConcerto Requiemというタイトルの前例があるかどうか知りません。私にとって音楽は行きつくところ宗教であるという考えが昔からありました。従って自分が長年親しみて、理想を追って来た音楽編成によって、人がいつか迎える厳しい時のために鎮めの歌を歌うのは、極めて必然的なことでした。

愛する大地の土に返る魂が、手造りの楽器群と連れ添って歩む道行きには、自然の石が仲立ちとして似合います。そして、協奏曲としてのあり方や、旋法・律動の点でも、私なりの考え方や美意識をつきつめたものになりました。

(初演プログラムより——作曲者)

作曲年 一九八一年 初演 一九八一年五月 第六回定期 演奏時間 約二十三分

編成 独奏 二十絃・笛・尺八・胡弓・琵琶・太神・二十絃・二十絃・打楽器

(一人は指揮を兼ねる)

子供のための組曲

音楽が「いのり」や「まつり」からはなれて独立してから、今日までどうやって続いていたのは、それが人の本能にとって快いからにちがいない。すべての人が、うたったり、たいたり、弾いたり、おどったりしていた時代から、専門の演奏者と聴き手とに分かれていった時代を通り、現代のように、人が音楽とかかわる立場やあり方が多様化していった時代になっても、その根本はかわらない。現代において作曲家がどのように刷新した経過をたどって作曲しようと、聴き手が受けとめるのは、瞬間の音のひびきと、その流れでしかない。その快さだけが(不快さをも含めて)、作品の評価の基準となるべきであらう。

単純な音型、素朴な旋律、そして活き活きとしたリズムによって組み立てられた「子供のための組曲」は、演奏する人と聴く人との両方に、しあわせを与えてくれる音楽である。集団の第一回演奏会に登場して以来、誠実なこの曲の作者の人格に對するのと同じように、この曲に対する高い評価は変わらない。「集団名曲十八番」のレギュラーナンバーとして、これからも多くの人たちに愛されるだろう。

(解説 昭二、一九七七年第四十回定期のプログラムより)

作曲年 一九六四年 初演 同年十一月第一回定期 演奏時間 約十分 楽器編成 尺八・三味線・琵琶・箏・二十絃・打楽器 (今回は尺八と箏がトリプル、三味線と琵琶がダブルです)

客演者プロフィール

堅田喜三久 九世望月太左衛門の次男として生まれ、十六才で邦楽界に入り、堅田喜三久に師事。昭和二十八年に襲名。現在フリーとして、レコード、テレビ、舞台に活躍。海外公演も度々行う。

日比啓子 東京芸大音楽学部大学院卒。一九七五年から七八年までドイツ政府給費留学生としてシュトゥットガルト音楽大学に学び声楽をS・ゲスティに師事し、首席で卒業。その後バイエルン国立歌劇場ゲルトナー・プラッツツェアターと契約。

マリヤ・カルナス (一位なし二位)、メンデルスゾーン (二位)、ミューゼン (三位) の各コンクールに入賞。八一年よりE・シュワルツコフに師事。東京では三回のリサイタルを開く。現在二期会会員。八二年、ニューヨークで開かれた「反核・平和への呼びかけ」コンサートに本団の坂田誠山らと共に出演したのがきっかけで、八代舞曲によるバラフレーズのソプラノ・ヴォーカリーズを歌うことになった。この作品の新しい共演者として期待されている。

77

Regular Concert:
定期演奏会
An Evening by Prize Winnersコンクール優勝者による
ソロとデュエットの夕べ六月十七日(金) 午後七時開演
青山タワー・ホール

- 一、華やき／三木稔作曲 (二十絃箏独奏) 滝田美智子
二、竹籜五章／諸井誠作曲 (尺八独奏) 三橋貴風
三、船弁慶 (琵琶独奏) 田原順子
四、二十絃箏と十七絃のための二つのファンタジー／入野義朗作曲
五、エクリアス／武満徹作曲 (十七絃) 木村玲子
六、阿吟／蛙地慶司作曲 (尺八) 田嶋直士 (琵琶) 半田淳子
七、阿吟／蛙地慶司作曲 (胡弓) 蛙地慶司 (三味線) 砂崎知子(助演)

音楽ほどではありませんが、邦楽の方にもいくつかコンクールがあり、団員たちもいろいろ参加して多くの成果を上げています。今回のコンサートは、最近のこうしたコンクールで見事一位を獲得した団員たちが、コンクールで演奏した曲目を集けてみました。受賞年代別に曲目を並べると、一九七六年バンムジーク・フェスティバル第二回「伝統楽器による現代音楽コンクール」独奏部門一位(竹籜五章)、合奏部門一位・ドイツ大使賞(エクリアス)、七九年第三回同コンクール合奏部門一位・石井五郎賞(二十絃箏と十七絃のための二つのファンタジー)、八〇年第四回同コンクール独奏部門一位・ドイツ大使賞(華やき)、八二年「宮城合奏曲コンクール」作曲部門一位(阿吟)、同年「日本琵琶音楽コンクール」一位(八船弁慶)となります。コンクールで演奏される曲は、各奏者が自信を持って臨む「十八番」といえるでしょう。それだけに選曲には各自の嗜好が、演奏には各自の音楽性が凝縮されているのではないのでしょうか。そう言った意味でも実に興味深いコンサートです。演奏はもちろん「折り紙付」ばかり。さらに登場する楽器の顔ぶれも尺八、胡弓、三絃、琵琶、二十絃箏、十七絃、と多彩で、必ずやお楽しみいただけることと思います。

(構成・藤崎重康)

78

Regular Concert:
定期演奏会
Concert for Traditional Music伝統音楽演奏会 No.9
命曲の巨匠たち
Virtuosi in Sokyoku History七月十二日(火) 午後七時開演
青山タワー・ホール

- 一、六段の調べ／八橋検校
二、初音の曲／山田検校
三、掛 枕／菊岡検校・八重崎検校
四、秋の言葉／西山検校
五、秋風の曲／光崎検校
六、千鳥の曲／吉沢検校
七、水の変態／宮城道雄

久々の伝統音楽演奏会は、地歌・箏曲の第二回になります。八橋検校(一六四一〜一六八五)から地歌の時代を経て、宮城道雄(一八九四〜一九五六)の処女作(一九〇九)まで時代を追って、事曲の推移を開き比べて見ようと思います。演奏者としては、八初音の曲で山田流の名手真鍋静勢さんに客演していただきますので、山田流の伝統的な芸風をうかがい知ることができると思います。又、八秋の言葉では半田淳子、八水の変態では田原順子と、本団の琵琶奏者が歌を受け持つのも聞きどころとなるでしょう。

(構成・宮田耕八朗)

(註) 曲目は多少変更があるかもしれませんがご了承下さい

入場料

- 指定席 二五〇〇円（良いお席を確保、当日受付にて指定席券をお渡しします。前売のみ）
- 自由席 前売二〇〇〇円・当日売二五〇〇円
- 中・高校生席 一〇〇〇円（総合定期のみ）
- 団体割引 一五〇〇円（十人以上の団体）

チケット取り扱い・お問い合わせ 日本音楽サービス 電話〇三・四〇九・五三三八

友の会会費募集

日本音楽集団では、演奏会などの催しのお知らせや（B会員）、定期コンサート・シリーズを一括して割引値で予約できるA会員を設けております。入会は随時です。ご希望の方は次の要領でお申し込み下さい。

- A会員・定期コンサート・シリーズ半年の三公演、又は一年の六公演のチケット割引と座席確保、その他の催しのお知らせ、機関誌「邦楽現代」（年二回刊、定価四〇〇円）、広報誌「邦楽現代ニュース号」（随時発行）の無料進呈、会費は三公演のチケット代を含み半年で五〇〇〇円、または六公演のチケット代を含み一年で一〇〇〇〇円。
- B会員・定期コンサートシリーズ及びそれ以外の催しのお知らせ、機関誌「邦楽現代」、広報誌「邦楽現代ニュース号」の無料進呈、会費は一年二〇〇〇円。

申し込み方法

- (1)各演奏会場で。
- (2)郵便振替 振替番号、東京〇〇〇〇〇〇日本音楽集団宛。友の会入会希望と明記。
- (3)銀行振込 東京銀行渋谷支店普通預金〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇日本音楽集団友の会宛。住所、氏名、電話、会費を銀行振込したことを明記して別便にて事務局へ郵送。
- (4)現金書留 住所、氏名、電話を明記し、会費を添えて日本音楽集団へ。

日本音楽集団1982年度後期写真展



第74回定期演奏会（青山タワー1月30日）より。
（秋）（望月太八作曲）

第75回定期演奏会（青山タワー1月25日）より。
〈コンチエルト・レクイエム〉三木純作曲



わかりやすい現代語訳

訂版 五 箏曲歌詞解明

松沢冬秀著
B6判・二五二頁
六一冊・定価二五〇〇円

訂版 新・箏曲歌詞解明

松沢冬秀著
B6判・二七〇頁
五五冊・定価三〇〇〇円

現代演奏古曲（明治新曲を含む）の概ねを二冊に収む。各曲解題、歌詞語訳、口語訳、語解補註、参考、説明、梗概（歌詞の背景となっている物語の解説）等を登載。（二二冊まで三〇〇〇円）

発行所 三曲稚風会

〒二四五横浜市戸塚区汲沢町二二二四 電話・横浜（〇四五）八八一・一七四七

露秋銘 尺八

西 田 露 秋

〒794 今治市新谷新田甲798

電話 0898-48-1097・1257

全国有名デパート
楽器店にて
お求め下さい



琴の座 / 実用新案登録第968205号
製の座 / 実用新案登録第968204号
あすか琴台 / 実用新案登録第143861号



あすか琴台

(高低両用)

本鹿皮口前・尾布

(セット)

胴掛ゴム



胴の座

琴の座





あなたの楽器も
危険にさらされています。
火事・破損・盗難にそなえ
保険をかけましょう。

突然の火災・盗難・交通事故…あらゆる災害が
待ち受ける現代。綱渡りのような生活はしたくない
ものです。損害保険は、暮らしをより確かなものにし
ます。大切に育ててきた幸せな生活。東京海上の損害
保険は、これからも多くの方々の幸せを守り続けます。
(楽器の保険も備えております。)

東京都千代田区丸の内1-2-1

海上商事株式会社

電話 (212) 0866 代表

東京海上火災保険株式会社

本店/東京都千代田区丸の内1-2-1

TEL (212) 6211 (大代表)

慶 祝

日本音楽集団中国演出成功

この度の中国公演のお世話をさせていただきました。
ご成功おめでとうございます。

素顔の中国へご案内します

 **日本旅行開発**

日本旅行業協会(JATA)会員 運輸大臣登録一般第226号

東京本社 〒107 東京都港区赤城2-5-1 東邦ビル9F
TEL 03-586-2137(代)

大阪営業所 TEL 06-271-4122(代)
九州営業所 TEL 0963-24-2638(代)

箏



オリジナル立奏台

三絃

十七絃

十八絃

一見不必要と思われる細かな点にまで、改良と創造を重ねてみました。高い完成度を誇る低音楽器の最高級品

二十絃箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現するために、楽器の本質を追求した箏

日本音楽集団推薦

琴光堂和楽器店

中島 隆

東京都目黒区碑文谷2丁目19-15 TEL 03(792)8481

映画「愛のコリーダ」、連続テレビドラマ「鳴門秘帖」、児童合唱との「ハタロウ」、邦舞との「鶴」、影絵との「八郎物語」、民俗芸能分野の「いりきり」や「阿波の狸囃子」、そしてオーケストラとの「急の曲」といった具合に、集団が他の文化領域においても効果的に演奏活動を広げられるような作品を、最近毎年のように創り出し音楽界に新風を吹き込んでいく三木稔の最新作初演に、三〇〇の聴衆は興奮と

報 速 「峠の向かうに何があるか」

感激記

感動に酔いしれ、拍手の嵐が吹き荒れた。また一つヒット作が生まれた一瞬である。名古屋で、アマチュアながらシアターピース路線を長年続けてきた全国でも例のないユニークな合唱団、グリーン・エコーの委嘱作品「峠の向かうに何があるか」がそれである。この作品は、今日全国各地に散在する義経伝説の一つで、愛知県岡崎市に伝わる「浄瑠璃姫物語」を

素材に、劇作家の山崎正和氏が書きおろし、三木稔が作曲した合唱劇である。約二時間を要する大作だがテーマは明確で、作曲者によると「日本の三つの時代の交錯、そして日本人の豊穡民族的特性と海外に向う願望の葛藤を、古今東西の大波の中で仕事を進めねばならない我々の問題としてこの大作のスジを通した」ということだ。合唱劇というが、もはやオペラに近い音楽的豊かさを持ち、あたかもグラランド・オペラのごとく上演され、演出・伊藤田静弘、しかもミュージカルばりのエンターテインメントともいえる。か。集団はオケ・ピットの中だけではなく、時には個々にスター的に舞台上に登場する。こういう場合、集団のメンバーは待っていましたばかりにその力量を十二分に発揮する。聴衆はもちろん、舞

台上の合唱団員からもヤンヤ／＼の大拍手だ。全員の大合唱による終結部では、



声でいっしょに歌っていた。三木稔の指揮棒がふり止められた時、心臓の鼓動は高まり目がうるんでいたのは私ばかりではあるまい。それは悲しみ・怒り・喜びでもないそれ以前の人間の根本にある感情であろうか。そしてこの新作を成功させたのは、見事に歌い、演じあげたグリーン・エコーの団員達であることはもちろんのこと、企画・制作にあたった藤井知昭氏、それを支えた他のスタッフのことも忘れるわけにはいかない。

(四月二十四日、昼夜公演、名古屋市民会館中ホール)

出演メンバー

指揮／三木稔、笛／藤崎重康、尺八／三橋貴風、琵琶／半田淳子、三味線／細柳・太田幸子、太鼓／花房はるえ、二十絃／吉村七重、十七絃／滝田美智子、打楽器／堅田啓輝

石崎信宏記

堅田啓輝「現代邦楽打楽器リサイタル」

何が出るかわからないコンサート

ゲスト多数出演予定

■一九八三年十一月八日(火)
■会場：赤坂・草月ホール

二十絃エコー・イン・ジアンジアン

○総五十七／小山清茂作曲 ○津軽の旋律によるパラフレーズ／新実徳英
○カシオペア21／三木稔作曲 ○ビートルズ・ナンバーより(6曲)
○パゴダの王女レドローネット／ラヴェル作曲 ○月の光／ドビュッシー作曲
出演：中丸春美・吉村七重・鈴木和子・滝田美智子・内藤洋子
座本エリ子・奈倉公子／野坂恵子
■日時：一九八三年六月十三日(月)午後七時開演
■場所：渋谷ジャズ・イン・会場：一五〇〇円(全自由席)
■チケット取扱：お問い合せ：渋谷ジャズ・イン四六二一〇六四一
野坂方四六三―三八二四

団員、及び団員関係の グループの動向

□終ったコンサート、ふりかえって一言
三橋貴風（尺八、三月十一日、十二日）
一般に小さな会場という点、アット・ホームな雰囲気を感じていますが、逆に自分のすべてをお客に見られているという点で、演奏する以外にも大変気を使いました。

研究団員コンサート（三月十六日）

今まで研究団員は、団内を対象に練習場でのミニ・コンサートという形で発表会を行ってききましたが、このほど初めて一般の人に聴いてもらおうとホールでのコンサートをひらきました。あいにくの雨でしたが、熱心に聴いて下さったお客さんを前にフレッシュな演奏がくりひろげられたと思います。「不備な点もありましたが、皆一生懸命やりましたし、一応の成果はあったと自負しております。」

（水谷雅康）

内藤洋子・久子ジョイント・リサイタル・イン・岡山（四月二十二日）

力いっぱい演奏し終って、まだ興奮きみです。三木先生が書いて下さいました「はいわれの詩」（発表したばかりの幼い双葉）がどのように成長していくか、ここでもう一度自分達を見つめ直し、ハッキリと見通しを持って、今後の課題にとり組みたいと思います。故郷で自分た

ちが舞台に立つという体験ができ、とてもうれしく思います。

□これからのコンサート最新ホット情報
邦楽器によるヴァリエーション・その一米る五月二十一日（土）、草月ホールにおいて、遊・と名づけられたコンサートが行われ、尺八・二十絃・打楽器の集団の若手による楽しい邦楽演奏の一夜がくりひろげられる予定。「若い才能たちが創り出す現代の八遊」。決してそんなに堅苦しくも、古くさくもないのです。もっと心を開いてみませんか」とは主催者の弁（p.28）

滝田美智子初の二十絃華リサイタル

（六月一日（水）・青山タワールホール）
「若輩ですが、今までの勉強の成果と、これからの第一歩となるような恥かしくないステージにしたいと頑張っています。」（表3）

□大作の初演続く三木稔のこれから

作曲に専念するために音楽監督を辞退した三木稔の作品上演が相次いでいます。オーケストラのための「八三の譜」と日中合奏曲「彩虹」序曲に次いで登場したのは、一年がかりで完成した合唱劇「峠」の向かうに何があるか。オペラとミュージカルの中間にカテゴライズされる一晩物の大作で、集団が器楽部分を担当し、作曲者の指揮で四月二十四日に名古屋市民会館で初演されました。

琴・三味線・17絃

（製造・販売）

ローンでお買物

（省）大津琴・三絃

東京・下北沢 (03)412-4671
製作所 群馬県太田市新井

最高の品質

常盤
強力[®]
琴系

サエ タサ
三枝商店

次いで六月二十四日から二十九日まで
俳優座劇場で初演される『うたよみざる』
は二幕仕立の本格的ミュージカル(p.25)

で、芸団協が総力をあけての企画。美女
と野獣を思わせるプロットですが、東北
弁による豊かな抑揚の語付けに目下奮闘
中。ユニークな出演者の他に、面白いの
は音楽構成で、孫悟空やケチャという猿
の伝説がヒントになった東アジア・トラ
イアングルだとは作曲者の話。

舞台作品としては、そのあとはいよいよ
オペラ第三作「オペラ・コラ（仮題）」に着
手するそうです。これは八五年六月セン
トルイス・オペラ劇場が第十期シーズ
ン記念に世界初演することが決っており、
破格の契約条件に作曲者は感激していま
す。台本・演出はコリン・グレーム。ハ
だVと同じく英語で作曲されます。

オーケストラのためには、七月八日に
日比谷公会堂で日フィルで初演される予
定の「一九四五年八月V」というタイトルの
作品。これは「反核・日本の音楽家たち」
の今年の行動の一つで、日本を代表
する十四人の作曲家が、ボランテアで
各五分の管弦楽曲を書くという強烈な企
画。三木作品は野坂恵子がソロする二十
弦管コンチェルトの形をとるそうです。

これだけでも大変なのに、その期間を
縫って行われる集団の四組の団員たちの
リサイタル、開催順に内藤姉妹（八かい
われの詩V完了）、滝田美智子・吉村七重
・堅田啓輝のために、それぞれ新作を書

き下すというのですから、驚異的な創造
姿勢というべきでしょうか。

野坂恵子初の神奈川リサイタル

（九月十五日（木）・神奈川県立音楽堂）
国際的に活躍する野坂恵子が、初めて
神奈川県で二十弦管リサイタルを行いま
す。これは、神奈川県立音楽堂の殿堂とも
いえる県立音楽堂が「第三・七回音楽鑑
賞の夕べ」として主催するものです。日
本で有数の音響を誇る音楽堂の、しかも
休日のマチネ（午後の公演）なので、
是非ご家族の皆さまとお出かけになり、
芸術の秋にふさわしい一日をお過ごしにな
ってはいかがでしょう。お話しは三木
稔。開演二時。入場料は無料、但し往復
ハガキでのお申し込みが必要です。〒二
二〇横浜市西区紅葉ヶ丘九一二 神奈川
県立音楽堂 電話 〇四五（241）三三三
一内線三〇三

尚、野坂恵子のコンサートは、他に七
月四日、京都府立文化芸術会館・九月一
日・二日、十一月一日・二日、渋谷ジャ
ンジャン、そして年度内（日時未定）に
は第十二回の自主リサイタルが東京でお
こなわれる予定です。

秋を彩る団員のリサイタル情報

まだ詳細が決まっていますが、現在
のところ次の通りです。十月十七日（月）
吉村七重第三回リサイタル（芝ABC
会館ホール）、十月二十日（木）田嶋直士

猿ゆえに、人ゆえに結ばれぬ山一と末子 猿村とは？ 里村とは？ そして愛とは？

三木稔が初めて挑む本格的ミュージカル！

芸団協公演'83

うたよみざる

ザ・ミュージカル



野坂恵子



秋野太作



後藤由美

■出演

秋野太作
桐生郁子
後藤由美
山下清美
竹沢嘉明
森敏孝
ほか青年座・
西田堯舞踊団

■演奏

野坂恵子（中）
張 曉輝（前）
佐藤康和
（ガムラン打楽器）

■スタッフ

川村光夫
三木 稔
ふじたあさや
西田 堯
栗津 潔
立木定彦
友竹正則

6月24日 ⇒ 6月29日

入場料●3,000円 絶賛前売中

電話予約・お問い合わせ

●(03)501-5870 芸団協へ

開演●24・27・28・29日

（PM6:30）

●25日（PM2:00/6:30）

●26日（PM2:00）

俳優座劇場

六本木 ☎470-2880



長沢勝俊作品特集

秋の総合定期で

第一回の定期で八千代のための組曲Ⅴが初演以来、集団のために有意義な作品を書きつづけてきた長沢勝俊作品による夕べを十月五日の第七九回定期で行います。長沢作品は第十四回定期でも特集しており、これが第二回目になります。

たまたま長沢はこの八月に六十才の誕生日を迎え、還暦記念ということにもなり、その折に新作を初演すべく着々と作曲が進んでいるようです。御期待ください。

・高橋明邦、竹井誠が今秋北歐でコンサートに出演
打楽器の高橋、笛・尺八の竹井が九月

米澤浩今秋アメリカへ
若手尺八奏者、米澤浩が今年の十月二日から十一月十日まで、盛岡の筆演奏家、黒沢和雄・千賀子雨氏とアメリカを巡回し、十二ないし十五回の演奏会に出演します。米澤は「ヨーロッパ」は以前行ったことがあります、初めてのアメリカで緊張しているとのこと。英語の堪能な彼のこと、フレッシュな文化交流ができることを期待しましょう。

尺八リサイタル（青山タワーホール）
十一月八日（火）堅田啓輝「現代邦楽打楽器リサイタル」（赤坂／草月ホール）
十一月十五日（火）鞋地慶司第二回胡弓リサイタル（青山タワーホール）

日本音楽集団第七回作曲公募の結果報告

日本音楽集団の作曲公募は七回を数え、合わせて四十五篇の応募があり、入賞作品も12曲あって、度々定期演奏会などで上演されています。今回は残念ながら二篇の応募しかなく、しかも審査の結果、試演或いは音響化する以前の問題が大きすぎる（伊藤部昭氏所見）ため入賞に至りませんでした。

尚、日本音楽集団は昨年四月アンデパンタン方式による実験作品演奏会を行いました（邦楽現代十二号参照）が、新しい作品を求める上で、委嘱も含め再考すべき時にあると痛感しております。

二十三日から十月十六日にかけてストックホルム文化省の招聘により、小橋絵等の日本人作曲家の作品によるコンサート、古典邦楽によるコンサートで谷殊美、高田和子と出演します。

コーヒー&軽食

コーヒーハウス “ユニコーン”

オーナー 西中勝三

横浜市戸塚区戸塚町4676

☎045-864-8711

銀座しゅわいよ・くちゅーる

マキ

銀座小松店、本郷サンシャインシティ・アルパ、池袋東武店、新宿アリスプロムナード・ベネッセ、渋谷ファッションコミュニティ101店、荻窪ステーションビル店、吉祥寺・ベルコ店、町田ジョルナ店

日本音楽協会通信

第5回日本音楽合奏フェスティバル大阪で盛会に終る

日本音楽合奏フェスティバルも六回目をむかえ、今まで開かれていた東京をはなれて、初めて関西の地、大阪尼崎のアルカイックホールで四月三十日に開催されました。

関西は、学生をはじめとして新しい日本音楽に積極的な活動を繰り広げている所です。

それを反映したのが、過去六回のフェスティバルで最多の十二団体もの参加があり、演奏時間の調整に苦労するほどでした。

参加団体と曲目を簡単に紹介しますと、まず日本音楽協会所属の団体として仙台から「合奏団・遊」△等双重△、東京から「星組合奏団」△ディヴェルティメント△と「合奏団たあく」△二つの田園詩△、名古屋から「グループみずほ」△子供のための組曲△、今回のフェスティバルの実行委員でもある地元大阪の「合奏団・鼎」△冬の日・パトリック△及び「関西音楽集団」△大津絵幻想△以上の六団体です。協会以外の合奏団は広島から「和楽器集団・樹」△竜女の玉△、地元からは「コピスアンサンブル」△第三重奏曲△、「グループ蒼」△セクベン△、「ぐるーぶ・いぶき」△野の花たち△、「奈良音楽研究会邦楽部」△等のための組曲△そして「京都学生三曲連盟」△緑竹交響△の六団体です。

結核の事情により今回は、日本音楽協会は参加できませんでしたが、その代り指揮の稲田康、高橋明邦両氏をはじめ数名の団員の方々が演奏に参加してくれ、また、代表の長沢勝俊氏もお祝いにかけつけて下さいました。

昨年九月にオープンしたばかりの会場で新しくきれいなのはいいのですが、例年と比べてホールの収容人員もかなり大きく、またいつもの倍近い参加人数をむかえて、実行委員の運営も大変でしたが、多数の参加者、後援を得て、今回のフェスティバルも盛会のうちに終えることができました。

実行委員会による自主運営もほぼ定着し、今後東京以外の地で開催される時の指針にもなることと思われまします。

来年は、再び東京で開催する予定ですが、それ以後は隔年又は三年目毎にでも東京を離れて、名古屋、仙台その他の地方で開催していきたいと思ひます。

合奏団活動予定

○「遊」 第五回定期演奏会／十一月十六日（水）戦災復興記念ホール（仙台）
○関西音楽集団 第十三回ミニ・コンサート 六月十九日（日）毎日新聞ホール（京都）

第十四回ミニ・コンサート／九月十五日（木）神戸小劇場
第十五回ミニ・コンサート（クリスマス・コンサート）／十二月二十五日（日）

会場未定

日本音楽協会合奏団——日本の楽器を演奏するアマチュアの方々へ

邦楽による合奏のグループで、流派などは問わずに誰でも参加できます。東京の方は友の会A会員（詳細は19ページ参照）に同時入会になります。東京では「星組合奏団」（練習日は毎週土曜日夜四時から六時）、「合奏団たあく」（金曜日夜六時から八時）、お問い合わせは集団事務局まで。関西では「合奏団鼎」（日曜日一時から五時）、お問い合わせは大崎じゅん（〇七七四九一三〇三四）まで。名古屋では「グループみずほ」（第一、三火曜日夜六時半から八時、他に月一回月曜日）、お問い合わせは水野正徳（〇五六八一二一）七七五夜間）まで。仙台では「合奏団遊」（土、日曜日）、お問い合わせは山本昌子（六二一九一四〇）まで。他にハワイにもハワイ大学生中心のグループ Nipponia Hawaii Ensemble があります。

伝統のサウンド
加藤邦楽器
製造直売

●ローンの取扱いも致します。



三鷹駅南口エクセル三鷹1F TEL・(〇四二二)四九一八〇六一
三鷹市下連雀三一一五一一八 夜間(〇四二二)四九一五四五二

遊

邦楽器によるヴァリエーション その一

主催 中原善二事務所
 一九八三年五月二十一日(土) 六時四十五分開演
 会場 草月ホール 入場料 二八〇〇円
 お問い合わせ・チケット取り扱い 五八二一〇五八六七一

○荒城の月／郷子の実他 ○アイノクライネナバトム
 ジータ／時の踊り他 ○奥の遠音／華やぎ他
 ○出演 三橋貴風・藤崎重康・米澤浩・竹井誠
 吉村七重・宮越圭子・木村玲子・出口裕子
 熊沢栄利子・大島菜穂子・聖田香織
 企画構成 中原善二 制作 永井利加子

邦楽クリニック

合歓の郷の豊かなリゾート施設の中で
 オモシロマジメに楽しめるユニークな講習会!!

昨年好評だった「邦楽クリニック」。今年は尺八をプラスして一層充実させました。

黒潮踊る太平洋と緑の山々に包まれた伊勢志摩国立公園の中2300万㎡の大自然に全ての音楽施設とスポーツ・宿泊施設を持った世界一のハイクラスリゾートである合歓の郷。わたしたちは考えます、「人びとの大切な人生のひとつを、心ゆたかに、楽しく充実したものにしたい」と。日本音楽集団の一流講師陣による講習会はクリエイティブな余暇を約束してくれるでしょう。

日程：昭和58年7月9日(土)～12日(火)

会場：合歓の郷ミュージックキャンプ

主催：ヤマハレクリエーション

協力：日本音楽集団



所沢市

琴・三味線・尺八



紅屋

店 ☎0429(25)3935 自宅 ☎0429(43)3030

製造・販売・修理

新所沢下車7分 青梅信金向い 長期ローン有

はな／ん抄 邦(楽)現(代)抄 放言抄 方言抄 はな／ん抄 邦(楽)現(代)抄 放言抄 方言抄 はな／ん抄

【語釈】(国破)安禄山の反乱軍により国の統治が破壊されたことだが、不況により経済が破綻したと解釈する説もある。(山河在)ふるさとの山川は変わらずにあるという吉永小百合主演の日活映画。(城)長安の都。近代的には自ら経営する会社。(時)時代あるいは時世。(恨別)別離を悲しむ。別居した妻を恨むこと。(烽火)のろし。通信の手段が発達してい

国破 山河在
 城春草木深
 感時花溅泪
 恨别鸟惊心
 烽火连三月
 家书抵万金
 白头搔更短
 浑欲不胜簪

ほうげん抄

新典漢文大誤解

你好。日本音楽集団訪中演奏旅行団帰国、歴史的刺激的友好的大成功、万歳！我不会中国話、然中国文化偉大表敬。記念訪中、美麗五言律詩「春望」杜甫、我近大的大胆解釈大展開。笑付、謝謝。

はな／ん抄 邦(楽)現(代)抄 放言抄 方言抄 はな／ん抄 邦(楽)現(代)抄 放言抄 方言抄 はな／ん抄

日本音楽集団第十二回海外公演

クフモ フィンランドは招く

横溝亮二

日本音楽集団がこの七月、フィンランドのクフモ室内音楽祭に参加することになり、演奏の成果が期待される。首都ヘルシンキから東北に約七〇〇キロ、ソ連国境に近い小村クフモは、かつてフィンランド人ですら名も知らぬ貧しい僻地であった。しかし、一九七〇年、チェリストのセツボ・キマネン氏がこの地に音楽祭を創設、近年では内外五〇人も一流演奏家、のべ一万人を超える聴衆が参集し、ヨーロッパでも有数の室内音楽祭として注目を集めている。

筆者は十数年来、たびたびフィンランドを訪れ、クフモ室内音楽祭にも三度参加した。そうした過程で芸術監督であるセツボ・キマネン氏と親交を持つに至った。氏はアジア・アフリカ諸国の伝統音楽に深い関心を持っており、何回かの来日時にたまたま筆者がきかせた三木稔氏の音楽、および日本音楽集団の演奏レコードに強い興味を示した。彼は三木氏と集団をぜひクフモ室内音楽祭に招聘したいと希望し、筆者が仲介をしながら、この程正式に実現の運びとなったものである。

日本音楽集団は約十日間、フィンラン

ドに滞在し、この間、クフモ室内音楽祭で三回コンサートを持つ。なお、この音楽祭は毎年テーマ作曲家を選んでおり、今年は七月二〇日に「三木稔デー」がもうけられる。集団はこのほかフィンランド北部の主要都市オウル、シベリウスの故郷ハメリンナ、および首都ヘルシンキでもコンサートを開催する契約となっている。北欧における集団の初の演奏は多くの人々に感銘を与えることとなるだろう。フィンランドは人口五百万の小国ではあるが、非常に音楽の盛んな国で、政府公認の音楽祭が十、未公認のものは更に千を数えるといわれ、大作作曲家シベリウスを生んだ国にふさわしい音楽国である。対日感情も非常によく、四月からフィンランド航空も東京―ヘルシンキをノン・ストップで結ぶようになっている。

(音楽評論家)

■第十一次海外公演参加者

笛・西川浩平、尺八・三橋貴風、三味線・眞田司郎、琵琶・半田淳子、二絃・吉村七重、十七絃及び太神・花房はるえ、打楽器・聖田啓輝、作曲・三木稔

お琴・三味線・尺八・各流舞扇

和楽器

上野楽器店

◆本店 札幌市中央区南5条西2丁目上野ビル1F TEL011-511-0416
◆東急店 札幌市中央区北4条西2丁目さくら東急7F TEL011-212-2504
◆そこう店 札幌市中央区北5条西2丁目札幌そこう7F TEL011-213-2341

ない昔は、のろしをあげて変事の発生を伝えた。つまり現代では電信の意味にとらえる。(家書)家の者からの手紙。ここでは親戚に預けた娘からの手紙のこと。(白頭搔)頭をかくことだが、中国では遠方に暮れたときの動作。日本では失敗したときの動作。(不勝簪)昔宮僚は冠をかぶり簪で留めた。髪が薄くなって簪をさせないということはその仕事ができなくなったという意味で、何もできずに老いてゆく身を悲しんでいる。

通釈 会社は不況で倒産してしまい、今私には昔親友吉永小百合の映画だけが青春の思い出として残っているだけだ。つぶれた会社にも春は来たが、まるで草ぼうぼうに荒れているようだ。このご時世を嘆いては花を見て涙し、別れた妻を恨んでみても自分の心の貧しさに驚き呆れ鳥肌がたつようだ。債権者からの電話はこの三カ月ひっきりなしに続いているが、こんな時愛する娘からの手紙でも届いたならばそれは万金に値するだろう。白髪頭をかけば髪は一層薄くなっていて、いっそおカマにでもなって裸きに出ようと思うのだが、かんざしもさせない。

(黒髪 望)

日本音楽集団及び団員等の国内における行事（太字は集団主催。録音や学校公演等は省略します）

五月十六日（月）

二十一日（土）

二十九日（日）

六月一日（水）

十三日（月）

十六日（木）

十九日（日）

二十二日（水）

七月四日（月）

八日（金）

十二日（火）

十七日（日）

九月一日（木）

二日（金）

十五日（木）

十五日（木）

十月五日（水）

第七十六回春の総合定期演奏会（p.16） 朝日生命ホール

邦楽によるヴァリエーション・その1・道（集団の尺八・

二十絃・打楽器奏者が出演）（p.28） 赤坂/草月ホール

「民族音楽を育てる会」で駐地慶司作曲入睡連——胡弓

と十七絃によるVを委嘱・初演 大阪郵便野金ホール

滝田美智子二十絃弾リサイタル——三木稔の作品による

（表3） 青山タワーホール

尺八ゾリステンのすべて（民音主催） 読売ホール

第七十七回定期演奏会——コンクール優勝者によるソロと

デュエットの夕べ（p.18） 青山タワーホール

関西音楽集団第十三回ミニ・コンサート

二十三日（水）——二十九日（水） 芸団協主催で三木稔作曲ミニ・コンサート（う

たよみさる）初演（p.31） 俳優座劇場

野坂恵子二十絃弾リサイタル 京都府立文化芸術会館

「反核・日本の音楽家たち」のオーケストラ・コンサート

で三木稔（一九四五年八月）が初演（日フィル・野坂恵子）

（p.25） 日比谷公会堂

第七十八回定期演奏会——伝統音楽演奏会No.9（八重曲の

素晴しき人。

宮田耕八郎は尺八の名手であるとともに、すでに相当な力量を持った作曲家でもある。宮田ファンの中には、彼のあたたかな音色が好きだという人も多いだろう。また尺八協奏曲（長沢勝俊作品）や詩曲（同）などでみせる底の深い演奏の魅力をあげる人も数多いだろうと思う。その演奏も時を重ねることに味わいが深まっていくのは間違いない。しかし、その尺八の魅力とともに曲作りにも目を離すわけにはいかないだろう。最近、彼の作曲ペースは、かなり勢いがついてきた。一つ一つの作品はレベルが非常に高い。たいていの作曲家には平凡な作品がつきものであるが、宮田作品にはそれがない。安易な妥協を許さず、納得するまでは作品を発表しないからだろうと思う。来年1月、彼の作品展が開かれる。ブダペスト国際コンクールで優勝しヨーロッパで花開いたピオラの妖精、井上祐子をメインゲストに、フルート界のプリンス大友太郎が華やかな笛の音を響かせてくれる筈である。今から楽しみである。さのゆたか（プロデューサー）



井上祐子

宮田耕八郎の本曲
鶴の巣ごもり
デジタル録音
曲目
鶴の巣ごもり 鹿の遠音
秋田音垣 本調
雪井鶴子 山谷

好評発売中!!
¥2,000
送料 200円
アフロディーテ
☎044・233・1858



マークの宮田耕八郎の「アフロディーテ」

(p.25)

朝日生命ホール

十七日(月)

古村七重第三回サリサイタル

芝ABC会館ホール

二十日(木)

田嶋直士第三回尺八リサイタル (p.12)

青山タワーホール

二十七日(木)

ゲヴァントハウス・オーケストラ東京公演での三木稔作曲

昭和女子大見記念講堂

△急の曲△で集団が出演

ジェンジェン

十一月一日(火)・二日(水)

二十鈴野坂恵子の世界

ジェンジェン

六日(日)

ゲヴァントハウス・オーケストラ名古屋公演の△急の曲△で集団が出演

愛知文化講堂

八日(火)

聖田啓輝「現代邦楽打楽器リサイタル」(p.23) 草月ホール

愛知文化講堂

一九八三年度日本音楽集団地方公演(文化庁助成)

岐阜/岐阜産業会館

岐阜/岐阜産業会館

七日(月)

和歌山/和歌山市民会館小ホール

和歌山/和歌山市民会館小ホール

八日(火)

第九回関西定期演奏会

京都府立文化芸術会館

九日(水)

ゲヴァントハウス・オーケストラ神戸公演の△急の曲△で

神戸文化ホール大ホール

十日(木)

ゲヴァントハウス・オーケストラ徳島公演の△急の曲△で

徳島市文化センター

十一日(金)

集団が出演

徳島市文化センター

地方公演つづき

高松/高松オリブホール

高松/高松オリブホール

十二日(土)

岡山/岡山市民文化ホール

岡山/岡山市民文化ホール

十三日(日)

今治/今治市住民センター

今治/今治市住民センター

十四日(月)

松山/松山市民会館中ホール

松山/松山市民会館中ホール

十五日(火)

姫路/姫路市民会館

姫路/姫路市民会館

十六日(水)

駐地慶司第二回胡弓リサイタル

駐地慶司第二回胡弓リサイタル

十七日(火)

青山タワーホール

青山タワーホール

宮予定表内、カッコ内のページは広告及び詳細が掲載されている箇所です。

☆日本音楽集団は東京音楽大学のC・四〇三教室を練習場として使用しております。

練習場の電話は、九八三・八〇九六(直通)です。

和楽器専門店

御琴 三絃 尺八 並びに 附属品

諸先生作曲練習本取揃 別註楽器製作承ります
クレジント販売も致しております

かな ぜん

老舗 金善

京・東山区大和田大路四条下ル二丁目
TEL (〇七五) 五六一一・二九四〇・五四一一・〇三九

琴・三絃一式

株式 会社 琴の長澤

京都・中京区四条旧御前通り上ル
TEL 〇七五・八二一・一三四五

日本音楽協会

協会世話人

長沢勝俊(代表)・二本松・野坂恵子・宮田耕八朗・田村拓男・山田美智子・坂井敏子・
坂田誠山・田嶋直土・奈良義寛・芹沢英雄

構成団体

日本音楽集団

野坂恵子・十絃等エコー
ぐるーぷ・だだ

尺八ソリスト
関西音楽集団

「星組」合奏団(東京)

合奏団「たあく」(東京)

合奏団「響」(関西)

合奏団「湯」(仙台)

合奏団「グループ・みずは」(名古屋)

Nippona Hawaii Ensemble (ハワイ)

★以上六団体は日本音楽協会合奏団
を構成します。

協会支部

東京支部 日本音楽集団事務所扱い
関西支部 田嶋直土

水戸支部 倉藤幸山

長野支部 佐藤幸子山

山梨支部 郷見

長崎支部 牧山雅楽部

熊本支部 吉川羽衣山

秋田支部 野口裕子

邦楽の会つばら事務局)

滝田美智子二十絃箏リサイタル

三木稔作品による

○竜田の曲 ○秋の曲 ○箏譜詩集第二集(委嘱初演) ○白燐 ○華やき
助演 荒井佳子(ヴァイオリン) 福田輝久(尺八)

一九八三年六月一日(水)七時開演 場所 青山タワーホール

■入場料 二〇〇〇円(全自由席)

■お問い合わせ・電話予約 四〇九一五三五八 日本音楽サービス

四〇一〇五三三 滝田美智子(夜間)

日本の音、

その磨きぬかれたひびき

☆尺八の音譜そのまま
「しの笛」が吹けます。

民謡、三曲、詩吟に最適

美しい雅
根来塗



- 1.5尺用(九本調子)~1.7尺用(七本調子)
標準価格 10,000円
- 1.8尺用(六本調子)~2.0尺用(四本調子)
標準価格 12,000円
- 2.1尺用(二本調子)~2.3尺用(一本調子)
標準価格 14,000円

実用楽器出版中

ロツレチ笛

品番 0221

＜八孔＞



新発売!

株式会社ワダ楽器

〒100 東京都千代田区千代田1-1-1

TEL. 03 (323) 4440

株ワダ楽器

東京市千代田区千代田1-1-1 TEL. 03 (323) 4440

編集後記

本号では、近くて遠い国、中国での公演の特集をしましたが、お楽しみいただけただでしょうか。

■ 七年前、まさに0から出発した「邦楽現代」の編集でしたが、この四月より又々0からの出発として新たに経理を担当することになりました。そのような事情で数字と格闘する傍ら、筆奏者の団員宮越圭子さんと事務局の同僚石崎信宏氏他数名の協力を得て、ボランティアの編集スタッフで完成したものです。私にとって初体験ばかりの新しい仕事の合間を縫っての作業でしたが、再び活字の上で現代

邦楽の伝達者としての仕事に集中できる日を持つこととしましょう。
(霜島)

■ 時間に余裕がなかったため大変でしたが、根が文字が好きなのでとても楽しくできました。
(宮越)

■ 八峠の向かう……の初演の日、最高気温二十八度。その暑さよりも熱く燃えた若冠二十六才の同行記でした。(石崎)

■ ページ数を押え、全員ボランティアの作業で何とか十五号が出せました。広告提供の方々にも感謝します。(発行責任者)

邦楽現代第十五号

定価四〇〇円

一九八三年五月十六日発行

発行所 日本音楽集団

東京都渋谷区神宮前6-15-14

小早川ビル

電話〇三—四〇九—五三七四(代)

Nihon Ongaku Shudan (Pro Musica Nipponia)

Kohyaka Bldg. 6-15-14 Jingumae,

Shibuya-ku, Tokyo.

発行責任者 三木 稔

編集 霜島素子

印刷 株式会社アジア企画群

印字 澄川美知子

表紙デザイン 及部克人

レイアウト協力 黒沢恭子

「邦楽現代」取扱店 東京と東京近郊一

三越本店・高島屋玉川店・横浜店・東武

船橋店・浅草松屋・川崎コミヤ(以上、

武田屋楽器店扱い)・琴光堂 諏訪・松

本・琴光堂 金沢・関屋楽器 福井・伊

与楽器 奈良・中村楽器 京都・金澤楽器

岐阜・琴光堂 大阪・大阪屋 北

海道・上野楽器

直接購読ご希望の方は日本音楽集団へお

申し込み下さい。尚、現在一六号は品

切れ、七号から九号は三〇〇円、十号以

降四〇〇円、送料は二冊まで二〇〇円、

四冊まで二五〇円。継続購読ご希望の方

は友の会日会員(詳しくは本誌19ページ

参照)になられるとお得です。

●日本音楽サービス扱いのレコードと楽譜●

●出版楽譜

長尺楽譜作品

- 〇尺八・華による「青春」/400円
- 〇華四重奏曲/600円
- 〇詩曲・まゆだまのうた/850円
- 〇二つの田園詩/500円
- 〇楽しい練習曲集「華と尺八」初編/750円
- 〇楽しい練習曲集「華と尺八」中編/700円

三木稔作品

- 〇四群のための形楽/500円
- 〇華・詩集I/300円
- 〇孤響・ソネットI/500円
- 〇天如・依保の曲・竜田の曲/800円
- 〇夕影の詩・華四重・雅びのうた/700円
- 〇松よ(パート譜は別)/900円*

- 〇千鶴の曲/400円*
- 〇華・詩集II/1200円*
- 〇尺八のためのソネットI-V/1200円*
- 〇序の曲/2500円*
- 〇破の曲/2500円*
- 〇急の曲/4000円*

●レコード

- 〇組曲「人形風土記」・子供のための組曲 長尺楽譜作品集——2200円R
- 〇青春 長尺楽譜作品集/二つの田園詩・華四重奏曲・詩曲・青春——2200円R
- 〇まゆだまのうた 長尺楽譜作品集/三味線狂奏曲・囃歌・二つの田園詩・まゆだまのうた——2200円R
- 〇詠本によせて 長尺楽譜作品集/第三巻・尺八協奏曲・詠本によせて・附録によせる三つのバラード——2200円R
- 〇めばえ 三木稔作品集I/「四季」ダンス・コンセルタントI・芽生え・奔歩・夕影の詩・竜田の曲——2500円CA
- 〇巨火・わ 三木稔作品集II/巨火・わ——2500円CA
- 〇野坂基子・三木稔「二十世紀の世界」/破の曲・華四重奏曲と華四重・白樺・まぼろしの米・天如・依保・竜田・華詩集II・ひなふり・東から——10000円CA
- 〇野坂基子・二十世紀の世界II/紡(池田新一)・芽生え(三木)・秋の曲(三木)・ワルズ(マカイ)・グリーン・スリープス——2500円CA
- 〇野坂基子・二十世紀の世界III(三木稔作品集III)/談話協奏曲・華詩集I・華やき——2500円CA
- 〇三木稔作品集I/古代舞曲によるバラード・凸——2000円CO
- 〇三木稔作品集II/ソネット・華詩集I・四群のための形楽——2000円CO
- 〇三木稔作品集III/序の曲・雅びのうた・天如・孤響——2000円CO
- 〇三木稔・凸・古代舞曲によるバラード/1500円CO
- 〇雅(みやび)/華やき(三木稔)・六段の調・みだれ・新八千代獅子——2500円CO
- 〇GAKU/柳冠(長沢)・四大(入野義朗)・品(藤田正典)・プレリュード(新楽譜集)——2800円KO
- 〇野坂基子古典音楽集I—V/各2000円CO
- 〇日本の楽器入門——3000円CO

★上記のレコード・楽譜の販売の仲介をしますのでご希望の方は下記の日本音楽サービスへご連絡下さい。
また、コピー楽譜もお届けしています。
★楽譜の価格の後、無印は全音版、*はみきねん・コレクション版。レコードの価格の後、RはRVC版、COはコロムビア版、Vはビクター版、QAはカメラータ版です。
★この他にカセットテープもあります。詳細はお問い合わせください。

日本音楽サービス 東京都渋谷区神宮前6-15-14小早川ビル 電話03-409-5358